

2026年度

授業計画 作業療法学科

長崎医療技術専門学校

本書の利用にあたって

本書は、受講者が学習の流れを理解し、円滑に講義を受けられるようになることを目的としています。分野は「基礎」「専門基礎」「専門」に分かれ、さらにそれぞれの分野の「ねらい」「科目」「内容（キーワード）」を掲載しています。開講される科目について各講義の概要や講師からの要望、各回講義内容、使用するテキストならび参考書、単位取得にあたっての評価の方法を記載していますので受講前に十分に熟読し、学習の計画に役立ててください。

また、本書は本校の教育内容を広く社会に公開するものです。受講者が将来さらなる進学や編入学の際に、本校で受けた講義の内容を証明するものとして利用できる可能性もありますので、今後も大切に保管してください。

本書が受講者の自主的な学習に役立つものになるとともに、本校にとっても教育活動を点検・評価し、良き学校教育へつながるものとして大いに活用されることを望みます。

教務委員会

作業療法学科

<1年生 前期科目>

- 行動科学
- 医療倫理学
- 運動学総論
- 研究方法論
- 医学英語
- 文章表現法
- コミュニケーション学
- スポーツ・レクレーション演習
- 医療基礎 I
- 解剖学 I
- 生理学 I
- 生理学 II
- 運動学 I
- 社会福祉論
- リハビリテーション概論
- 作業療法概論 I
- 身体機能評価学 I
- 精神機能評価学 I
- 日常生活活動 I

<1年生 後期科目>

- 医療基礎 II
- 解剖学 II

- 生理学 III
- 運動学 II
- 人間発達学
- 臨床心理学
- 病理学概論
- 内科学 I
- 整形外科学 I
- 神経内科学 I
- 精神医学総論
- 小児科学
- 外科学
- 脳神経外科学
- 基礎作業学 I
- 作業療法概論 II
- 身体機能評価学 II
- 精神機能評価学 II
- 日常生活活動 II
- 臨床実習 I

<2年生 前期科目>

- 解剖学 III
- 解剖学演習
- 運動学 III
- 内科学 II

- 整形外科学Ⅱ
- 神経内科学Ⅱ
- 精神医学
- 臨床医学Ⅰ
- 基礎作業学Ⅱ
- 身体機能評価学Ⅲ
- 精神機能評価学Ⅲ
- 作業療法評価学演習
- 身体障害治療学Ⅰ
- 身体障害治療学Ⅱ
- 精神障害治療学Ⅰ
- 発達障害治療学Ⅰ
- 高次脳機能障害治療学
- 日常生活活動Ⅲ
- 地域作業療法学

< 2年生 後期科目 >

- 画像診断学
- 臨床医学Ⅱ
- 作業療法管理学Ⅰ
- 基礎作業学Ⅲ
- 身体障害治療学Ⅲ
- 義肢装具学
- 精神障害治療学Ⅱ
- 発達障害治療学Ⅱ

- 高齢期治療学
- 総合治療論Ⅰ
- 総合学習Ⅰ
- 職業関連活動
- 臨床実習Ⅱ

< 3年生 科目 >

- 作業療法管理学Ⅱ
- 総合治療論Ⅱ
- 総合学習Ⅱ
- 総合学習Ⅲ
- 地域リハビリテーション論
- 臨床実習Ⅲ
- 臨床実習Ⅳ

【教育目標】 授業のねらいと内容

作業療法学科 (OT)

分野	ねらい	科目	内 容 (キーワード)
基礎	科学的思考の基盤 人間と生活	行動科学	人間の行動, ころや適応, 発達や学習の仕組みなど
		医療倫理学	医の倫理を学び, 法的観点から医療と福祉の問題点を考える
		運動学総論	運動器の基本的な構造と機能について学習する。
		研究方法論	研究に必要なデータ集約と処理方法について学ぶ
		医学英語	医学生物分野のテキストで実践的な英文読解力を身につける
		文章表現法	日本語力を会得し, 表現伝達する能力を養う
		コミュニケーション学	自分の特性を知り, 他人を理解し, コミュニケーションスキルを学習する
		スポーツ・レクリエーション演習	健康増進と維持をしながら, スポーツを通して学生間の交流を深める
		医療基礎Ⅰ・Ⅱ	社会人・医療人として必要な能力を身につける
専門 基礎	人体の構造と機能 および心身の発達	解剖学Ⅰ	正常な人体と構造について理解する
		解剖学Ⅱ	人体諸器官の正常構造を関連する機能を含め理解する
		解剖学Ⅲ	人体の構造や機能について, 系統的に理解する。
		解剖学演習	人体諸器官の正常構造と機能を学び, 標本で理解を深める
		生理学Ⅰ	循環, 呼吸などのメカニズムを理解する
		生理学Ⅱ	運動制御の神経学的基礎や感覚機能のメカニズムを理解する
		生理学Ⅲ	代謝, ホルモン, 自律神経などのメカニズムを理解する
		運動学Ⅰ	人体の基本構造と運動の仕組みを理解する
		運動学Ⅱ	四肢, 体幹の運動学について演習を通し理解する
		運動学Ⅲ	運動・動作の観察・測定・分析の初歩的手段を体験学習する
		人間発達学	ヒトの成長について各段階の発達の概要を理解する
		臨床心理学	心身障害者との接し方, 臨床心理の歴史, 心理面接や心理テスト
		疾病と障害の成り 立ち及び回復過程 の促進	病理学概論
	内科学Ⅰ		臓器別及び系統的疾患の病態, 症候, 診療について学ぶ
	内科学Ⅱ		消化器及び系統疾患の病態, 症候, 診療を理解する
	整形外科Ⅰ		骨・関節の疾患と治療法を学ぶ
	整形外科Ⅱ		整形外科疾患の診断, 治療, リハビリなどを学ぶ
	神経内科学Ⅰ		脳神経の機能と障害を知り, その所見を理解する
	神経内科学Ⅱ		脳血管疾患, 感染性疾患等を学ぶ
	精神医学総論		ひとの精神機能と各種精神疾患の特徴や治療法を理解する
	精神医学		各種精神疾患の特徴や治療法を理解する
	小児科学		成長と発達, 栄養, 小児保護, 小児の疾患について理解する
	外科学		外科の歴史と特徴, 無菌法, 損傷, 腫瘍, 輸血, 臓器移植等を知る
	脳神経外科学		神経系の臨床解剖, 頭蓋内圧亢進, 脳血管障害, 脳腫瘍, 頭部外傷
	画像診断学		放射線の種類と性質, 人体への影響, 治療法について理解する
	臨床医学Ⅰ		救急症候の対応や皮膚科の疾患などを学ぶ
	臨床医学Ⅱ	栄養学や薬理学, 泌尿器領域の疾患などを学ぶ	
保健医療福祉とリハ	社会福祉論	社会福祉の考え方や歴史, 社会福祉技術の実践について理解する	

	リハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	目的や歴史,他職種の役割, 社会保障制度について学ぶ	
		地域リハビリテーション論	地域で支援する作業療法や理学療法の実践を学ぶ	
専門	基礎作業療法学	基礎作業学Ⅰ	作業に関する基礎知識. 作業活動を通して多面的に分析する力	
		基礎作業学Ⅱ	作業分析,指導法を習得し治療効果について学ぶ	
		基礎作業学Ⅲ	作業分析,統計的解析の基礎. 客観的側面からの測定と分析	
		作業療法概論Ⅰ	作業療法の定義や歴史,役割や方法を理解し基本姿勢を学ぶ	
		作業療法概論Ⅱ	作業療法の意味や役割について学び, 作業療法を具体的に理解する	
	作業療法管理学	作業療法管理学Ⅰ	作業療法に関わる組織,法律,マネジメントなどを学ぶ	
		作業療法管理学Ⅱ	作業療法に関わる組織管理などを臨床現場の実践例を学ぶ	
	作業療法評価学	身体機能評価学Ⅰ	評価とは何か, 評価の視点と基礎的な評価法を学ぶ	
		身体機能評価学Ⅱ	作業療法で扱う各種身体機能評価を理解し, その方法を身につける	
		身体機能評価学Ⅲ	身体機能の各検査の目的, 方法を身につけ, 選択できるようにする	
		精神機能評価学Ⅰ	評価とは何か, 対象者を理解する視点を学ぶ	
		精神機能評価学Ⅱ	精神領域での基本的な評価法を学ぶ	
		精神機能評価学Ⅲ	精神領域での面接や各評価を実施できるようにする	
		作業療法評価学演習	身体機能評価, 精神機能評価の対象者への実施を学ぶ	
	作業治療学	身体障害治療学Ⅰ	身体障害作業療法の理論的アプローチの基礎を理解する	
		身体障害治療学Ⅱ	内部疾患の特性に応じた知識,技術を理解し習得する	
		身体障害治療学Ⅲ	身体障害の特性に応じた知識,技術を理解し習得する	
		義肢装具学	義手, 装具に対する知識を学び,製作体験を通して理解を深める	
		精神障害治療学Ⅰ	精神領域での目的, 治療構造, 理論について学ぶ	
		精神障害治療学Ⅱ	統合失調症や気分障害など精神障害の作業療法を理解する	
		発達障害治療学Ⅰ	発達障害児や学習障害児などへの作業療法について理解する	
		発達障害治療学Ⅱ	脳性麻痺や重度心身障害児への作業療法について理解する	
		高齢期治療学	高齢期の障害や認知症に対する作業療法について理解する	
		高次脳機能障害治療学	高次脳機能の評価と作業療法について理解する	
		日常生活活動Ⅰ	概念,基本動作,複合動作,評価について学ぶ	
		日常生活活動Ⅱ	各動作について深く理解し2年次の専門的学習につなげる	
		日常生活活動Ⅲ	疾患の特徴を理解し,評価や訓練,指導法を学ぶ	
		総合治療論Ⅰ	2年臨床実習に向けて必要な具体的な専門知識や技術を学ぶ	
		総合治療論Ⅱ	3年生の臨床実習で必要な具体的な専門知識や技術を学ぶ	
		総合学習Ⅰ	臨床実習への準備段階として抄読や国家試験対策学習を行う	
		総合学習Ⅱ	国家試験に必要な専門基礎知識,専門知識を繰り返し学ぶ	
		総合学習Ⅲ	国家試験に必要な専門基礎知識,専門知識を繰り返し学ぶ	
		地域作業療法学	地域作業療法学	歴史と流れ,制度,地域でのケアマネジメントを事例から理解する
			職業関連活動	職業的リハビリテーションと作業療法士の関りについて理解する
	臨床実習	臨床実習Ⅰ	臨床現場の見学を通してセラピストの役割等を理解する	
		臨床実習Ⅱ	評価実習として知識・技術を対象者に実践・応用する力を習得する	
		臨床実習Ⅲ	診療チームに参加し,職業的な知識,思考法,技能,態度の基本を学ぶ	
		臨床実習Ⅳ	訪問・通所リハビリテーションなどの通して, 地域での活動を学ぶ	

その他（正規科目外）

学科	科目	内容
PT・OT	国試対策	国家試験に向けた学習の場とする
PT・OT	実習対策	実習対策として講義を受講したりグループを組み課題を挙げて学習する
PT・OT	班別学習	国家試験に向けて班別で学習活動を行う
PT・OT	個人課題学習	実習対策として個人で課題を決めて学習に取り組む場とする

作業療法学科 1年生 前期

授業科目	行動科学					
担当者	長尾 博	所 属				
実務経験者の概要	実務経験(無) 1978年から現在まで48年間さまざまな大学で「心理学」を教える					
学科名	理学療法学科	学 年	1	総単位数	2 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	現在では心理学は心理学といわず、科学としての行動科学という。行動科学のさまざまな分野を概説し、行動科学の広さを知ってもらいたい。
到達目標	血液型で性格がわかる、心理学は読心術、心理学者は皆カウンセラーという誤解をとき、客観的な科学としての行動科学を学ぶ。
学生への要望	想定した心理学と大きく異なる行動科学を理解し、少しでも患者さんの行動を客観的にとらえられることを期待している。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第1回	講義	心理学の歴史（心理学は他の学問より新しい）	長尾 博
第2回	講義	心理学は科学になるか	長尾 博
第3回	講義	感覚と知覚（錯覚、幻覚、UFOをみたことの解釈）	長尾 博
第4回	講義	認知と思考（東大生はなぜノーベル賞がとれないか）	長尾 博
第5回	講義	生理の心理学（心と身体は1つなのか）	長尾 博
第6回	講義	学習の心理学（模倣は学習の基本）	長尾 博
第7回	講義	学習の心理学（記憶はイメージ、失恋は忘却しやすい）	長尾 博
第8回	講義	発達心理学（3つ子の魂は100まで）	長尾 博
第9回	講義	発達心理学（ヒトは熟して死んでいく）	長尾 博
第10回	講義	社会心理学1（1対1の対人関係とは）	長尾 博
第11回	講義	社会心理学2（3人以上の人間関係、トラブルの原因）	長尾 博
第12回	講義	パーソナリティの心理学（ヒトの性格は明確にはわからない）	長尾 博
第13回	講義	犯罪心理学（日本にはない学問としての心理学、長崎と犯罪の頻度）	長尾 博
第14回	講義	臨床心理学（心理学の学問としての水準）	長尾 博
第15回		まとめ	長尾 博

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100%
------------	-----------

<教科書および参考書>

教科書	心理学-心と行動の科学-（資料） 長尾 博
参考資料	

授業科目	医療倫理学					
担当者	福崎 博孝	所 属	弁護士法人ふくざき法律事務所			
実務経験者の概要	実務経験(無)					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	2 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	医療界のインフォームド・コンセントに関する知識や認識を深め、その背景をなす患者等の自己決定権の意味するものを知り、終末期医療における患者・家族との向き合い方を知り、ペイシエントハラスメント等のハラスメント被害の実態とその対策を知ること。
到達目標	医療の分野におけるトラブルの実態を知り、医療従事者が備えるべきその解決に資する法的な知識を習得すること。
学生への要望	医療や福祉の領域における患者や家族、高齢者・障害者との意思の疎通の回り方(コミュニケーションのとり方、インフォームド・コンセントの在り方)を知って欲しい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第1回	講義	医療の現場におけるインフォームド・コンセント(その1)	福崎 博孝
第2回	講義	医療の現場におけるインフォームド・コンセント(その2)	福崎 博孝
第3回	講義	医療の現場におけるインフォームド・コンセント(その3)	福崎 博孝
第4回	講義	医療の現場におけるインフォームド・コンセント(その4)	福崎 博孝
第5回	講義	人生最終段階における医療行為と患者の意思決定(その1)	福崎 博孝
第6回	講義	人生最終段階における医療行為と患者の意思決定(その2)	福崎 博孝
第7回	講義	人生最終段階における医療行為と患者の意思決定(その3)	福崎 博孝
第8回	講義	人生最終段階における医療行為と患者の意思決定(その4)	福崎 博孝
第9回	講義	医療紛争を未然に防ぐために-患者・家族との向き合い方(その1)	福崎 博孝
第10回	講義	医療紛争を未然に防ぐために-患者・家族との向き合い方(その2)	福崎 博孝
第11回	講義	医療紛争を未然に防ぐために-患者・家族との向き合い方(その3)	福崎 博孝
第12回	講義	ペイシエントハラスメント対策-患者・家族との向き合い方	福崎 博孝
第13回	講義	パワーハラスメント対策-パワハラ加害者にならないために(その1)	福崎 博孝
第14回	講義	パワーハラスメント対策-パワハラ加害者にならないために(その2)	福崎 博孝
第15回	講義	まとめ	福崎 博孝

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100% レポート課題 0%
------------	---------------------

<教科書および参考書>

教科書	各種テーマの各資料(事前配布)
参考資料	

授業科目	運動学総論					
担当者	鍵山 嘉史	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 回復期リハビリテーション病棟を持つ病院で作業療法士として勤務した経験を持つ。主に脳血管疾患と整形疾患患者への評価・治療の経験をもとに講義を実施する。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	15 時間	

<内 容>

授業の概要	運動器の基本的な構造と機能について学習し、四肢体幹の運動や動作分析といった応用的な知識につなげる足掛かりを作る。また、生体力学の基礎を併せて理解することで、複雑な動作機構の学習に備える。
到達目標	身体運動の面と軸を学習し、運動の時間的、空間的変化の定義を理解する。筋収縮の特徴や関節の力学的有利性を理解して身体の機能、動作へ応用をイメージすることができる。
学生への要望	併行して学習する解剖学や生理学とあわせて、毎回の講義で説明する学習範囲の全体像を掴んでほしい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	身体運動の面と軸	鍵山 嘉史
第 2 回	講義	回転運動	鍵山 嘉史
第 3 回	講義	筋力と重力	鍵山 嘉史
第 4 回	講義	モーメント	鍵山 嘉史
第 5 回	講義	身体とてこ	鍵山 嘉史
第 6 回	講義	運動器の構造と機能①	鍵山 嘉史
第 7 回	講義	運動器の構造と機能②	鍵山 嘉史
第 8 回	講義	まとめ	鍵山 嘉史

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100%
------------	-----------

<教科書および参考書>

教科書	中村隆一	基礎運動学 第7版	医歯薬出版
参考資料			

授業科目	研究方法論					
担当者	林 勇一郎	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 理学療法士として中枢神経疾患や運動器疾患を中心に急性期から生活期に至るまで経験している。新生児のリハビリテーションや通所リハビリにも従事している。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	15 時間	

<内 容>

授業の概要	Microsoft Office365 または、Googleworkspace を使用し、ファイル・フォルダの管理、文書作成、レポート作成、表計算、グラフ作成、発表資料作成等、学習に必要な ipad 操作スキルを学習する。さらに、セキュリティと情報モラルの基礎を学習する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ ipad 上におけるファイル管理およびクラウド上の保存域の概念を理解し操作できる。 ・ 文書作成ソフトを使用し、見やすく体裁の整った文書やレポートを作成できる。 ・ 表計算ソフトを使用し、数式や書式設定を応用した表やグラフを作成・操作できる。 ・ プレゼンテーション資料作成ソフトを使用し、簡単な発表用スライドを作成できる。 ・ セキュリティと情報モラルの一般的な事例における、適切な対応/対策を理解し各自の ID、メールアドレスおよびそれぞれのパスワードの管理ができる。 ・ リハビリテーション職として研究に対する必要性を理解し、医療倫理学を学ぶ。 ・ 研究に対する簡単な手順を理解し、文献検索ができる。
学生への要望	様々な授業で使用するデバイス操作の学習となるため、積極的に参加してほしい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	本校におけるタブレット利用に関する規定について。Google アプリ利用開始 (アドレス/パスワード設定)。学習支援アプリ (Goodnotes など) の利用開始。 ネットリテラシーについて①	林 勇一郎
第 2 回	講義	ネットリテラシーについて②	林 勇一郎
第 3 回	講義	PC スキル① スライド作成	林 勇一郎
第 4 回	講義	PC スキル② 表計算とグラフ作成	林 勇一郎
第 5 回	講義	PC スキル③ 文書作成	林 勇一郎
第 6 回	講義	文献検索の方法 (Google Scholar を用いた検索)	林 勇一郎
第 7 回	講義	研究デザインの種類と特徴	林 勇一郎
第 8 回	講義	医療統計法の基礎知識と実際	林 勇一郎

<評価方法>

成績評価・方法・基準	提出課題 30%	演習課題 (小テスト) 70%
------------	----------	-----------------

<教科書および参考書>

教科書	配布資料
参考資料	

授業科目	医学英語					
担当者	柴田 恭明	所属	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科			
実務経験者の概要	実務経験（無）					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	2 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	医学英会話テキストを資料として、臨床で有用な英会話の基礎を学ぶと共に、各ユニットのテーマである症状を誘発する機序や疾患について理解する。
到達目標	基本的な専門用語を理解し、患者と英語で簡単な会話ができる。
学生への要望	外国語の修得に有効な方法は「書く」、「聴く」、「話す」ことです。この3つのうち「書く」ことについて予習して頂きます。具体的には、A4用紙（罫線入り、白紙、どちらでも構いません）を準備し、中央に定規で縦線を引き、左に講義テキストの英語、右にその和訳を記載したレポートを作成し、講義終了後に提出して下さい。日常生活でも役立つ内容なので是非興味をもって取り組んで下さい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
		授業では、各ユニットのリスニング、単語や文法の説明をしたのち、二人一組となり、テキストに沿って実際に会話をして頂きます。	
第1回	講義	Fever 発熱	柴田 恭明
第2回	講義	Anemia 貧血	柴田 恭明
第3回	講義	Dehydration 脱水症	柴田 恭明
第4回	講義	Obesity 肥満	柴田 恭明
第5回	講義	Headache 頭痛	柴田 恭明
第6回	講義	Chest Pain 胸痛	柴田 恭明
第7回	講義	Cough 咳	柴田 恭明
第8回	講義	Abdominal Pain 腹痛	柴田 恭明
第9回	講義	Dysphagia 嚥下障害	柴田 恭明
第10回	講義	Hearing Loss 聴力障害・難聴	柴田 恭明
第11回	講義	Fracture 骨折	柴田 恭明
第12回	講義	Pregnancy 妊娠	柴田 恭明
第13回	講義	応用問題	柴田 恭明
第14回	講義	応用問題	柴田 恭明
第15回	講義	まとめ	柴田 恭明

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 90% レポート課題 10%
------------	---------------------

<教科書および参考書>

教科書	配布資料
参考資料	日本医学英語教育学会 編 総合医学英語テキスト step1 メジカルビュー英和中辞典（電子辞書でも可） 研究社

授業科目	文章表現法					
担当者	小松 直斗	所 属	長崎玉成高等学校			
実務経験者の概要	実務経験(無)					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	2 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	文章を書く上で必要とされる力は、語彙力・表現力・論理力である。語彙力が無ければ自身の考えを頭の中で組み立てることができず、表現力がないと相手には伝わらない。論理性を以て人は自身の考えを相手へ届ける。本講座では、学校生活のみならず、一般社会で生活していく上で困らない程度の基礎・三種の育成を行う。
到達目標	読み手にとって読みやすい文章表現、わかりやすい文章表現を用いて、文章を書くことができる。
学生への要望	言葉は出会わないと覚えようがない。本講座で出会う初見の語句は、必ず意味を押さえ、覚えること。覚えるだけでなく、日常の会話で用いることで初めて自身の語彙となる。しっかりと小テストの対策はもちろん、復習から実践までを意識すること。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	オリエンテーション・基礎力テスト	小松 直斗
第 2 回	講義	自己紹介文・他者紹介文を書こう	小松 直斗
第 3 回	講義	フレーム質問とスコープ質問	小松 直斗
第 4 回	講義	語彙力を高めるトレーニング①	小松 直斗
第 5 回	講義	語彙力を高めるトレーニング②	小松 直斗
第 6 回	講義	語彙力を高めるトレーニング③	小松 直斗
第 7 回	講義	表現力を高めるトレーニング①	小松 直斗
第 8 回	講義	表現力を高めるトレーニング②	小松 直斗
第 9 回	講義	表現力を高めるトレーニング③	小松 直斗
第 1 0 回	講義	表現力を高めるトレーニング④	小松 直斗
第 1 1 回	講義	論理力を高めるトレーニング①	小松 直斗
第 1 2 回	講義	論理力を高めるトレーニング②	小松 直斗
第 1 3 回	講義	論理力を高めるトレーニング③	小松 直斗
第 1 4 回	講義	まとめ・定期考査対策等	小松 直斗
第 1 5 回	講義	まとめ (定期試験の実施)	小松 直斗

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 80% 課題への取組み 20%
------------	----------------------

<教科書および参考書>

教科書	岸 健治	テスト式 国語常識の総演習 修訂三版増補	啓隆社
参考資料			

授業科目	コミュニケーション学					
担当者	牧山 美穂・他	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) リハビリテーション病院にて中枢疾患、変性疾患、認知症などに対する作業療法士としての臨床経験を持つ。訪問リハビリテーション、機能訓練事業等にも従事経験がある。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	人と接する際には、まず自分の特性を知ること、他者の対人パターンの在り方を理解することが大切である。その上でコミュニケーションを取る時に必要となる基本的なマナーやコミュニケーションスキルについて学習する。
到達目標	臨床場面で対象者とのコミュニケーションにおいて各種のスキルを想起でき、用いる事ができる。
学生への要望	積極的に学ぶ姿勢を持つ。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	コミュニケーションとは	牧山
第 2 回	講義	自己概念及び自己評価①	牧山
第 3 回	講義	自己概念及び自己評価②	牧山
第 4 回	講義	効果的なコミュニケーションスキル①	牧山
第 5 回	講義	効果的なコミュニケーションスキル②	本多
第 6 回	講義	社会人のマナーとしてのコミュニケーション①	牧山
第 7 回	講義	社会人のマナーとしてのコミュニケーション②	牧山
第 8 回	講義	臨床で役に立つコミュニケーション	本多
第 9 回	講義	表現方法①	牧山
第 1 0 回	演習	表現方法②	本多
第 1 1 回	演習	表現方法③	牧山・本多
第 1 2 回	演習	ディベート①	本多
第 1 3 回	演習	ディベート②	本多
第 1 4 回	演習	ディベート③	本多
第 1 5 回	講義	まとめ	牧山・本多

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 90% 活動点 10%
------------	------------------

<教科書および参考書>

教科書	資料配布		
参考資料	澤 俊二	コミュニケーションスキルの磨き方	医歯薬出版
	山口美和	PT・OTのためのコミュニケーション実践ガイド	医学書院

授業科目	スポーツ・レクレーション演習					
担当者	渡邊正之・他	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 精神分野の病院にて作業療法を行い、主に統合失調症・うつ病・認知症・神経症性障害のリハビリテーションを担当していた。臨床での経験や実務内容疾患の特性などを講義で話していきたい。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	1 5 時間	

<内 容>

授業の概要	医療・介護分野やスポーツ領域に限らず、健康寿命を延ばすために様々な運動療法が積極的に行われてきている。PT・OT として運動療法指導や地域活動等で活動することが多くなることを見越して集団指導における概念やリスク管理、工夫点などを学んでいく。また、運動を通して学生間の交流や自己の役割を認識し行動することを育む。
到達目標	学生自身の健康増進と維持および演習を通して集団指導における概念やリスク管理、工夫点などの習得。
学生への要望	学生自身の健康増進と維持、学生間の交流を深める目的でもあるため、積極的に活動してほしい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	演習	オリエンテーション	渡邊、白石
第 2 回	演習	リスク管理指導	渡邊、白石
第 3 回	演習	健康増進を目的とした集団指導	渡邊、白石
第 4 回	演習	スポーツ現場における集団指導①	渡邊、白石
第 5 回	演習	スポーツ現場における集団指導②	渡邊、白石
第 6 回	演習	集団レクリエーション①	渡邊、白石
第 7 回	演習	集団レクリエーション②	渡邊、白石
第 8 回	講義	集団レクリエーション③	渡邊、白石

<評価方法>

成績評価・方法・基準	レポート課題 100%
------------	-------------

<教科書および参考書>

教科書	配布資料
参考資料	

授業科目	医療基礎 I					
担当者	渡邊 正之	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 精神分野の病院にて作業療法を行い、主に統合失調症・うつ病・認知症・神経症性障害のリハビリテーションを担当していた。臨床での経験や実務内容疾患の特性などを講義で話していきたい。					
学科名	作業療法学科	学 年	1	総単位数	1 単位	
		開講時期	前期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	学則を学び、「医療」を学ぶ準備をする。社会と関わる心得を学ぶ。
到達目標	医療を学ぶ基礎を身に付ける。挨拶をはじめ、社会性を理解する。
学生への要望	医療に携わる者として求められることはどのようなことがあるのかを考え、理解を深めて欲しい。また、社会の一員として求められるものについても考えを深めて欲しい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	学則、ルールについて	渡邊 正之
第 2 回	講義	入学前課題の振り返り①	渡邊 正之
第 3 回	講義	入学前課題の振り返り②	渡邊 正之
第 4 回	講義	生活安全指導、市民生活・自治振興について	渡邊 正之
第 5 回	講義	授業ノートの作り方、メモを取る方法	渡邊 正之
第 6 回	講義	テキストやインターネット等からの調べ方、検索方法	渡邊 正之
第 7 回	講義	SNS のリスクについて	渡邊 正之
第 8 回	講義	身だしなみについて	渡邊 正之
第 9 回	講義	施設見学準備①	渡邊 正之
第 10 回	講義	施設見学準備②	渡邊 正之
第 11 回	講義	施設見学まとめ①	渡邊 正之
第 12 回	講義	施設見学まとめ②	渡邊 正之
第 13 回	講義	学習の振り返り①	渡邊 正之
第 14 回	講義	学習の振り返り②	渡邊 正之
第 15 回	講義	ゲートキーパー養成講座、消費生活出前講座	渡邊 正之

<評価方法>

成績評価・方法・基準	レポート 課題 100%
------------	--------------

<教科書および参考書>

教科書	竹内修二 解剖学トレーニングノート第7版	医学教育出版社
	竹内修二 生理学トレーニングノート	医学教育出版社
参考資料		

授業科目	解剖学 I					
担当者	林 勇一郎	所属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 理学療法士として中枢神経疾患や運動器疾患を中心に急性期から生活期に至るまで経験している。新生児のリハビリテーションや通所リハビリにも従事している。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	2 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	6 0 時間	

<内 容>

授業の概要	人体諸器官の正常構造を、関連する簡単な機能を含めて肉眼解剖学の立場から解説する。
到達目標	人体の肉眼解剖学的な主要な構造について、適切な用語を用いて具体的に説明できる。
学生への要望	解剖学は医学の最も基礎的な分野であり、専門科目を学ぶ上で不可欠である。先ず、人の身体がどのように組み立てられているのか興味を持って頂きたい。多くの量を学ぶことになるが、日々の積み重ねで克服できるものであり、努力に勝る道はないと考えてほしい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	解剖学概論、骨学総論①	林 勇一郎
第 2 回	講義	骨格系（上肢帯骨・自由上肢骨）①	林 勇一郎
第 3 回	講義	骨格系（上肢帯骨・自由上肢骨）②	林 勇一郎
第 4 回	講義	骨格系演習①（上肢帯骨・自由上肢骨）	林 勇一郎
第 5 回	演習	骨格系演習②（上肢帯骨・自由上肢骨）	林 勇一郎
第 6 回	演習	骨格系（下肢帯骨・自由下肢骨）①	林 勇一郎
第 7 回	講義	骨格系（下肢帯骨・自由下肢骨）②	林 勇一郎
第 8 回	演習	骨格系演習①（下肢帯骨・自由下肢骨）	林 勇一郎
第 9 回	講義	骨格系演習②（下肢帯骨・自由下肢骨）	林 勇一郎
第 1 0 回	講義	骨格系演習（上下肢まとめ）	林 勇一郎
第 1 1 回	演習	骨格系（脊柱・胸部）	林 勇一郎
第 1 2 回	演習	骨格系演習（脊柱・胸部）	林 勇一郎
第 1 3 回	演習	骨格系（頭蓋）	林 勇一郎
第 1 4 回	講義	骨格系演習（頭蓋）	林 勇一郎
第 1 5 回	講義	骨格系まとめ	林 勇一郎
第 1 6 回	講義	筋学総論	林 勇一郎
第 1 7 回	講義	筋系（上肢帯・上肢）①	林 勇一郎
第 1 8 回	講義	筋系（上肢帯・上肢）②	林 勇一郎
第 1 9 回	講義	筋系（上肢）①	林 勇一郎
第 2 0 回	講義	筋系（上肢）②	林 勇一郎
第 2 1 回	講義	筋系（上肢）③	林 勇一郎
第 2 2 回	講義	筋系（下肢帯・下肢）①	林 勇一郎
第 2 3 回	講義	筋系（下肢帯・下肢）②	林 勇一郎
第 2 4 回	講義	筋系（下肢）①	林 勇一郎
第 2 5 回	講義	筋系（下肢）②	林 勇一郎

第26回	講義	筋系（下肢）③	林 勇一郎
第27回	講義	筋系（上下肢まとめ）	林 勇一郎
第28回	講義	筋系（表情・咀嚼筋）	林 勇一郎
第29回	講義	筋系（体幹）①	林 勇一郎
第30回	講義	筋系（体幹）②	林 勇一郎
第31回	講義	まとめ	林 勇一郎

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 95%	課題提出 5%
------------	----------	---------

<教科書および参考書>

教科書	平田幸男	分冊 解剖学アトラス I	文光堂
		ヒューマン・アナトミー・アトラス 2023 (iPad アプリ)	
	坂井 建雄	プロメテウス解剖学・コアアトラス (電子版)	医学書院
	竹内 修二	解剖学トレーニングノート第7版	医学教育出版社
参考資料	小川鼎三・他	分担 解剖学 1.2.3	金原書店

授業科目	生理学 I					
担当者	松本逸郎	所 属	活水女子大学非常勤講師、日本生理学会会員			
実務経験者の概要	実務経験(無) 長崎大学医学部勤務 42 年。最終職階は同大医歯薬総合研究科准教授。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年生	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	人体の個々の臓器は液性因子と神経因子を介して調節され、中枢神経系が統合的に支配調節することでその機能が発揮する。ヒトを取り巻く外的と内的環境は絶え間なく変化するので臓器レベルに止まらず、中枢神経系の各階層でより精度の高い調節をうけ環境の変化に適応し、恒常性が保たれる。本講は生理学Ⅲ（後期開講）と連動して、血液、自律神経、心臓・循環器、呼吸機能の構造と機能を関連づけた生体恒常性の精妙な調節機序を学ぶ。
到達目標	作業療法士および理学療法士として専門的知識・技術を理解できる基礎的学力を身につけること。
学生への要望	講義のプリント（パワーポイントで作成した図）と内蔵機能の概要・ポイントを予め配信するので、予習しておくこと。併せて各々の講義単元ごとに小テスト問題を提示するので、解答を提出すること。分からないことがあれば、講義中でも終了後でも良いので質問すること。

<講義計画>

回数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	生理学の概要(主な臓器の主要な機能を紹介する)	松本逸郎
第 2 回	講義	血液 I : 血液の構成。赤血球の構造と役割、Hb と酸素の乖離曲線	松本逸郎
第 3 回	講義	血液 II : 白血球、血小板の役割	松本逸郎
第 4 回	講義	血液 III : リンパ球、骨髄幹細胞	松本逸郎
第 5 回	講義	血液 IV : 血漿、血漿蛋白、凝固と線溶、血液型	松本逸郎
第 6 回	講義	循環 I : 固有筋、特殊筋、心筋の電氣的／機械的特性、神経調節	松本逸郎
第 7 回	講義	循環 II : 細胞膜と膜電位、イオンチャンネル、静止電位、活動電位	松本逸郎
第 8 回	講義	循環 III : 心周期、心電図、心機図（心音、脈波、心内圧曲線）	松本逸郎
第 9 回	講義	循環 IV : 血管の種類と構造の特徴、肺循環と体循環、微小循環	松本逸郎
第 10 回	講義	循環 IV : 血圧の神経調節と液性調節、中枢神経系による循環調節	松本逸郎
第 11 回	講義	呼吸 I : 肺と気道の構造と働き	松本逸郎
第 12 回	講義	呼吸 II : 呼吸運動とその調節	松本逸郎
第 13 回	講義	呼吸 III : ガス交換、閉塞性疾患と拘束性疾患	松本逸郎
第 14 回	講義	呼吸 IV : ガス (O ₂ と CO ₂) の運搬	松本逸郎
第 15 回	講義	総括 : まとめ	

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100%
------------	-----------

<教科書および参考書>

教科書	武田 裕子 人体の構造と機能(1) 解剖生理学 第 5 版	メディカ出版
参考資料	竹内修二 生理学トレーニングノート	医学教育出版社
	坂井建雄 系統看護学 人体の構造と機能(1) 解剖生理学	医学書院

授業科目	生理学Ⅱ					
担当者	中畑泰和、樽見 航	所 属	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科			
実務経験者の概要	<p>実務経験(無)</p> <p>【講義】 担当者は2名とも、長崎大学医学部生に対して、神経科学に含まれる事象について、そのメカニズムを重要視しながら、細胞レベル、分子レベルの理解を促す講義経験を有している。</p> <p>【実習】 講義経験と同様に、人体を用いた神経、筋の興奮状態の測定や感覚系および中枢を介した反応測定について筋電図測定機器や脳波、脳血流測定機器を用いた臨床に即した指導経験を有している。</p>					
学科名	理学療法学科	学 年	1年生	総単位数	1単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	30時間	

<内 容>

授業の概要	本講義は、運動制御機構における神経学的基礎についての理解を養うことを主たる目的としている。講義では、神経生物学の基礎事項に始まり、主に運動制御を司る神経メカニズムについて概説する。これに加え、感覚機能や、情動・思考などの高次精神機能を司る神経メカニズムについての知識を習得することで、人間の神経システムの全体像を俯瞰できるようになることを目指す。また、能動学習という学生が自ら学び、調べたことを発表し、理解を深める講義スタイルを導入する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動機能を制御する神経系の基礎を理解する 2. 理学療法・作業療法士の国家試験合格を目的とした神経メカニズムの基礎知識を獲得する
学生への要望	上記の目標に到達するために、教員から学生への一方通行的な講義だけではなく、相互的対話による学習効率の強化を目指す。このため、学生には自己学習だけではなく、積極的な講義への参加姿勢を求める。

<講義計画>

回数	授業形態	内 容	担 当
第1回	講義	ニューロンの形態と機能①	樽見 航
第2回	講義	ニューロンの形態と機能②	樽見 航
第3回	講義	中枢神経系①(脊髄)	樽見 航
第4回	講義	中枢神経系②(間脳・脳幹)	樽見 航
第5回	講義	中枢神経系③(小脳・大脳皮質)	樽見 航
第6回	講義	中枢神経系④(大脳辺縁系・大脳基底核)	樽見 航
第7回	講義	末梢神経系(脊髄神経・脳神経)	樽見 航
第8回	講義	筋・骨格系①	中畑泰和
第9回	講義	筋・骨格系②	中畑泰和
第10回	講義	脊髄と神経伝導路①	中畑泰和
第11回	講義	脊髄と神経伝導路②	中畑泰和
第12回	講義	感覚①(体性感覚・内臓感覚)	中畑泰和

第13回	講義	感覚②（視覚・味覚）	中畑泰和
第14回	講義	感覚③（聴覚・平衡覚・嗅覚）	中畑泰和
第15回	講義	まとめ	中畑泰和、樽見 航

<評価方法>

成績評価・方法・基準	100点満点で評価する。 定期試験 100%；・筆記試験の得点により評価する。
------------	--

<教科書および参考書>

教科書	武田 裕子 人体の構造と機能(1) 解剖生理学 第5版	メディカ出版
参考資料		

授業科目	運動学 I					
担当者	林 勇一郎	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 理学療法士として中枢神経疾患や運動器疾患を中心に急性期から生活期に至るまで経験している。新生児のリハビリテーションや通所リハビリにも従事している。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	理学療法にとっての運動学 (Kinesiology) は、「人間の運動の科学」であり、理学療法士として実務をするために必須の学問である。 人間のからだの構造を学ぶ解剖学、人間のからだの機能を学ぶ生理学、そして、身体および身体各部を物体とみなした時の力学を基礎とした応用科学であることについて学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・運動学用語を理解し、使用できるようになる。 ・運動力学を理解する ・身体を動かす際の中枢神経の働き (生理) について理解する。 ・身体を動かす際の末梢神経と効果器 (筋) の働き (生理) について理解する。
学生への要望	原則的に教科書に沿って進めるので復習を欠かさないこと。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	オリエンテーション、運動の捉え方	林 勇一郎
第 2 回	講義	生体の構造と機能①	林 勇一郎
第 3 回	講義	生体の構造と機能②	林 勇一郎
第 4 回	講義	運動器の構造と機能①	林 勇一郎
第 5 回	講義	運動器の構造と機能②	林 勇一郎
第 6 回	講義	運動器の構造と機能③	林 勇一郎
第 7 回	講義	末梢神経と自律神経①	林 勇一郎
第 8 回	講義	末梢神経と自律神経②	林 勇一郎
第 9 回	講義	中枢神経系の構造と機能①	林 勇一郎
第 1 0 回	講義	中枢神経系の構造と機能②	林 勇一郎
第 1 1 回	講義	中枢神経系の構造と機能③	林 勇一郎
第 1 2 回	講義	反射の仕組み①	林 勇一郎
第 1 3 回	講義	反射の仕組み②	林 勇一郎
第 1 4 回	講義	反射の仕組み③	林 勇一郎
第 1 5 回	講義	まとめ	林 勇一郎

<評価方法>

成績評価・方法・基準	中間試験 40% 定期試験 60%
------------	-------------------

<教科書および参考書>

教科書	中村隆一 基礎運動学 第7版	医歯薬出版
参考資料		

授業科目	社会福祉論					
担当者	柳川 裕美	所 属	合同会社 Three・M			
実務経験者の概要	実務経験(有) 社会福祉士として特別養護老人ホームで相談業務に従事した後、介護支援専門員として居宅介護支援事業所で実務を行う。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	2 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	社会福祉の歴史とその概要を学び、あわせて時事の話題や課題に触れながら今後の社会福祉の在り方について考察する。以下のことを学習のねらいとする。 1)諸外国を含めた社会福祉の概念ととりまく状況を理解する。 2)日本における福祉の現状と課題を理解する。 3)日本における福祉のビジョンとトレンドを理解する。 4)社会福祉を支える社会資源について理解する。 5)今後の我が国の社会福祉の課題と展望を考察する。
到達目標	何のためにリハビリテーションを行うのかを常に考え実践できるセラピストになる。
学生への要望	セラピストとして生理学的な知識等は必須だが、その先にあるクライアントの「暮らし」も同様に重要な視点である。この「暮らし」を支える諸施策の基本を学ぶと同時に、セラピストとして患者さんや地域に対してどう関わっていけるかを考察してほしい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	社会福祉の理念	柳川 裕美
第 2 回	講義	国・自治体組織や福祉人材の展望	柳川 裕美
第 3 回	講義	地域福祉について	柳川 裕美
第 4 回	講義	高齢者福祉～アドバンス・ケア・プランニングについて考える～	柳川 裕美
第 5 回	講義	高齢者福祉～介護保険制度について考える～	柳川 裕美
第 6 回	講義	高齢者福祉～高齢者虐待～	柳川 裕美
第 7 回	講義	認知症の母「ドキュメンタリー映画」前半	柳川 裕美
第 8 回	講義	認知症を支える父と娘「ドキュメンタリー映画」後半	柳川 裕美
第 9 回	講義	障害者福祉について	柳川 裕美
第 1 0 回	講義	障害者福祉について	柳川 裕美
第 1 1 回	講義	利用者保護制度について	柳川 裕美
第 1 2 回	講義	低所得者福祉について	柳川 裕美
第 1 3 回	講義	子ども家庭福祉について・ケアラーの支援	柳川 裕美
第 1 4 回	講義	地域包括ケアシステムとは	柳川 裕美
第 1 5 回	試験	まとめ	柳川 裕美

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 1 0 0 %
------------	--------------

<教科書および参考書>

教科書	石田慎二・他	社会福祉 第 6 版	ミネルヴァ書房
参考資料	社会福祉の動向 2026		中央法規出版

授業科目	リハビリテーション概論					
担当者	淡野義長・他	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 臨床現場にて高齢者医療から整形外科、福祉分野を経験。その幅広い経験から臨床とつながる講義を実施する。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	障害のある方に寄り添って、その方々を支え、その方々一人ひとりの力となる仕事に就く医療従事者の一員＝リハビリテーションに携わる専門職を目指すものとして、「健康」と「障害」について理解する。個人や社会の障害に対する考え方の変遷、社会保障体制の変化や、チーム医療としての各専門職との連携について学ぶ。
到達目標	リハビリテーション(rehabilitation)を正しく理解する。正しい知識をもって、リハビリテーション医療の対象や現状、各専門職の役割について知る。
学生への要望	講義の前に教科書を読んで予習しておいてください。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	リハビリテーションの意味と定義	淡野 義長
第 2 回	講義	リハビリテーションの歴史	淡野 義長
第 3 回	講義	リハビリテーション 障害と障害者の歴史	韋 傳春
第 4 回	講義	障害の捉え方 (ICIDH から ICF へ)	韋 傳春
第 5 回	講義	リハビリテーションを支える社会保障制度①	淡野 義長
第 6 回	講義	リハビリテーションを支える社会保障制度②	淡野 義長
第 7 回	講義	リハビリテーションとチーム医療①	韋 傳春
第 8 回	講義	リハビリテーションとチーム医療②	韋 傳春
第 9 回	講義	リハビリテーション工学①	淡野 義長
第 1 0 回	講義	リハビリテーション工学②	淡野 義長
第 1 1 回	講義	活動とは①	韋 傳春
第 1 2 回	講義	活動とは②	韋 傳春
第 1 3 回	講義	グループワーク	淡野・韋
第 1 4 回	講義	グループワーク・発表	淡野・韋
第 1 5 回	講義	まとめ	淡野・韋

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100%+活動加算
------------	----------------

<教科書および参考書>

教科書	川手 信行 はじめての講義 リハビリテーション概論のいろは	南江堂
参考資料		

授業科目	作業療法概論 I					
担当者	三岳 直也	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 精神・高齢期分野の病院にて作業療法士として従事しており、統合失調症・双極性障害・認知症等の作業療法を担当していた。					
学科名	作業療法学科	学 年	1 学年	総単位数	1 単位	
		開講時期	前期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	作業療法についての概要を理解し、作業療法士という専門職としての基本的姿勢を身に付ける。
到達目標	作業療法の誕生・歴史・現状などを把握し実際に施設見学を行い、興味を持つことが出来る
学生への要望	わからない言葉(用語)は、事前に調べるなど、積極的に理解する努力を行って欲しい。人と関わる職種なので、人に対する関心を持って取り組んで欲しい

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	作業療法の活動の場	三岳 直也
第 2 回	講義	作業療法とは①	三岳 直也
第 3 回	講義	作業療法とは②	三岳 直也
第 4 回	講義	作業療法の歴史(日本、世界)	白石 昌子
第 5 回	講義	作業療法の対象と実際①(身体)	白石 昌子
第 6 回	講義	作業療法の対象と実際①(身体)	白石 昌子
第 7 回	講義	作業療法の対象と実際②(精神)	三岳 直也
第 8 回	講義	作業療法の対象と実際②(精神)	三岳 直也
第 9 回	講義	作業療法の対象と実際③(老年)	白石 昌子
第 10 回	演習	作業療法の対象と実際④(発達)	白石 昌子
第 11 回	演習	施設見学	三岳・白石
第 12 回	演習	施設見学	三岳・白石
第 13 回	演習	施設見学まとめ	三岳・白石
第 14 回	演習	施設見学発表	三岳・白石
第 15 回	講義	まとめ	三岳 直也

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 80% レポート課題 20%
------------	---------------------

<教科書および参考書>

教科書	日本 OT 協会 作業療法学全書改訂第 3 版作業療法概論	協同医書出版
参考資料	長崎重信 OT 学ゴールドマスターテキスト 作業療法概論(改訂第 2 版)	メジカルビュー社

授業科目	身体機能評価学 I					
担当者	白石 昌子	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 急性期、回復期、地域包括ケア、外来リハ、訪問リハ、通所介護、認知症疾患医療センター勤務を通して、医療～介護まで幅広く経験。とくに高齢者・認知症・地域リハに従事した経験が多い。					
学科名	作業療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	前期	総時間数	15 時間	

<内 容>

授業の概要	身体機能評価の概要と目的、人を理解するための評価の基礎、評価を行う上での留意点等を学びます。検査・測定の数値だけではなく、評価結果の統合と解釈までの流れがイメージできるように、繰り返し考える練習をします。グループ演習も含め体験する機会を多く作りながら、使用頻度の高い評価を経験し、後期の各論に備えます。各講義の終わりに、学んだことを記述してもらうことで、書く練習や知識の定着につながるようにします。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身体機能評価の目的と意義を理解し、説明することができる。 ・演習や座学を通し、機器の扱いや基本的な評価の流れを理解する。
学生への要望	作業療法実践の基本となる評価について関心を持ち、各論の評価を学ぶための基礎と捉えて学習してほしい。講義の終わりの記述は、成績評価に反映しますので、文章を書く練習と捉え、しっかり取り組んでください。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	身体機能とは、評価の目的と流れ	白石 昌子
第 2 回	講義	意識レベル・バイタルサイン	白石 昌子
第 3 回	演習	バイタルサイン測定演習（グループワーク）	白石 昌子
第 4 回	講義	評価体験①（グループワーク）	白石 昌子
第 5 回	講義	評価体験②（グループワーク）	白石 昌子
第 6 回	講義	ADL、QOL、社会生活の評価	白石 昌子
第 7 回	講義	まとめ	白石 昌子

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 80% レポート課題 20%
------------	---------------------

<教科書および参考書>

教科書	配布資料
参考資料	作業療法評価学 第4版 医学書院

授業科目	精神機能評価学 I					
担当者	渡邊 正之	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 精神・高齢期分野の病院にて作業療法士として従事しており、統合失調症・双極性障害・認知症等の作業療法を担当していた。臨床での経験を活かし、疾患の基本や関わり方等を講義で話していきたい。					
学科名	作業療法学科	学 年	1 学年	総単位数	1 単位	
		開講時期	前期	総時間数	15 時間	

<内 容>

授業の概要	評価の意味や目的を学ぶ。評価を行う前段階とし、対象者に対する興味や自己理解を深める
到達目標	精神科作業療法の概要を理解し、観察評価の視点を身に付けてほしい
学生への要望	グループワークでは積極的に発言して下さい。また、予習・復習を行い、わからない言葉や単語は調べて理解しておいて下さい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	精神機能とは、ICF の紹介	渡邊 正之
第 2 回	講義	人を理解するとは、自己理解を深める	渡邊 正之
第 3 回	演習	外観の評価①	渡邊 正之
第 4 回	演習	外観の評価②	渡邊 正之
第 5 回	講義	評価項目の検討①うつ状態	渡邊 正之
第 6 回	講義	評価項目の検討②認知症	渡邊 正之
第 7 回	講義	面接評価	渡邊 正之
第 8 回	講義	まとめ	渡邊 正之

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100%
------------	-----------

<教科書および参考書>

教科書	山根 寛	精神障害と作業療法 新版	三輪書店
参考資料	堀田 英樹	精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版	中央法規

授業科目	日常生活活動 I					
担当者	鍵山 嘉史	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 回復期リハビリテーション病棟を持つ病院で作業療法士として勤務した経験を持つ。また、介護支援専門員として居宅介護支援事業所での勤務経験を持つ。					
学科名	作業療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	前期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	対象者の生活に関わる作業療法において、日常生活活動を深く捉え、分析していくことは、治療の原点となるものである。導入として日常生活活動の概念や評価、基本となる活動について学修する。
到達目標	ADL の概念や枠組みを理解する。各動作に関連する福祉機器や生活環境を知り、リハビリテーションにおける ADL 支援を考える。
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な日常生活の様々な活動について、興味を持って学んでほしい。 ・演習やグループワークなど主体的に取り組んでほしい。 ・実習室での授業時はユニフォームを着用し、身なりを整えておくこと。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	作業療法と ADL	鍵山 嘉史
第 2 回	講義	ADL の概念と範囲	鍵山 嘉史
第 3 回	講義	ADL 指導の概要	鍵山 嘉史
第 4 回	講義	ADL の評価①	鍵山 嘉史
第 5 回	講義	ADL の評価②	鍵山 嘉史
第 6 回	講義	基本動作と支援機器①	鍵山 嘉史
第 7 回	講義	基本動作と支援機器②	鍵山 嘉史
第 8 回	講義	基本動作と支援機器③	鍵山 嘉史
第 9 回	講義	リハビリテーション支援機器①	鍵山 嘉史
第 10 回	講義	リハビリテーション支援機器②	鍵山 嘉史
第 11 回	講義	リハビリテーション支援機器③	鍵山 嘉史
第 12 回	講義	リハビリテーション支援機器④	鍵山 嘉史
第 13 回	講義	生活環境を考える①	鍵山 嘉史
第 14 回	講義	生活環境を考える②	鍵山 嘉史
第 15 回	講義	まとめ	鍵山 嘉史

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100%
------------	-----------

<教科書および参考書>

教科書	長崎重信	OT 学ワールド' マスターテキスト 日常生活活動 (ADL)	メジカルビュー社
参考資料	伊藤利之 橋元 隆	新版 日常生活活動 (ADL) 第 2 版 評価と支援の実際 日常生活活動 (ADL)	医歯薬出版 神稜文庫

作業療法学科 1年生 後期

授業科目	医療基礎Ⅱ					
担当者	渡邊 正之	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 精神分野の病院にて作業療法を行い、主に統合失調症・うつ病・認知症・神経症性障害のリハビリテーションを担当していた。臨床での経験や実務内容疾患の特性などを講義で話していきたい。					
学科名	作業療法学科	学 年	1	総単位数	1 単位	
		開講時期	後期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	グループ学習を体験することで、その効果やグループで取り組むことの大切さを学ぶ。また、臨床実習Ⅰで学習したことをまとめ、作業療法の意味や役割について整理する。
到達目標	学習の不十分さを補うための方法を知り、グループでの学習の効果を経験する。学習したことをまとめ、発表できるようになる。
学生への要望	前期の学習で不十分なところはしっかり復習して後期に臨んで欲しい。グループ学習の効果を知り、効果的な学習につなげて欲しい。また、調べる、探求することの大切さを理解し、意識して取り組んで欲しい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第1回	講義	前期に学んだ基礎医学領域の復習①	渡邊 正之
第2回	講義	前期に学んだ基礎医学領域の復習②	渡邊 正之
第3回	講義	学習の振り返り①	渡邊 正之
第4回	講義	グループ学習の方法について学ぶ①	渡邊 正之
第5回	講義	グループ学習の方法について学ぶ②	渡邊 正之
第6回	演習	グループ学習の方法を体験する	渡邊 正之
第7回	講義	学習の振り返り②	渡邊 正之
第8回	演習	臨床実習Ⅰ 準備①	渡邊 正之
第9回	演習	臨床実習Ⅰ 準備②	渡邊 正之
第10回	演習	臨床実習での学習報告①	渡邊 正之
第11回	演習	臨床実習での学習報告②	渡邊 正之
第12回	講義	学習の振り返り③	渡邊 正之
第13回	演習	グループで問題の解説に取り組む①	渡邊 正之
第14回	演習	グループで問題の解説に取り組む②	渡邊 正之
第15回	講義	学習の振り返り④	渡邊 正之

<評価方法>

成績評価・方法・基準	レポート課題 100%
------------	-------------

<教科書および参考書>

教科書	竹内修二 解剖学トレーニングノート第7版 医学教育出版社 竹内修二 生理学トレーニングノート 医学教育出版社
参考資料	

授業科目	解剖学Ⅱ					
担当者	佐伯 和信、村井 清人	所 属	長崎大学生命医科学域			
実務経験者の概要	実務経験(無)					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	2 単位	
	作業療法学科	開講時期	後期	総時間数	6 0 時間	

<内 容>

授業の概要	解剖学Ⅰの分野に続いて、人体諸器官の正常構造を、関連する簡単な機能を含めて解説する。
到達目標	人体の肉眼解剖学的な主要な構造について、適切な用語を用いて具体的に説明できる。
学生への要望	解剖学の知識は、将来の専門的な事柄を理解するための基礎的な知識となる。先ず人の身体がどのような構造になっているのか興味を持って欲しい。その上で、講義で出てくる解剖学用語を学生諸君自らが考えて理解していく姿勢が望ましい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容		担 当
第 1 回	講義	(1) 脈管学	脈管学総論	佐伯 和信
第 2 回	講義		心臓①	佐伯 和信
第 3 回	講義		心臓②	佐伯 和信
第 4 回	講義		心臓③	佐伯 和信
第 5 回	講義		動脈系①	佐伯 和信
第 6 回	講義		動脈系②	佐伯 和信
第 7 回	講義		動脈系③	佐伯 和信
第 8 回	講義		静脈系①	佐伯 和信
第 9 回	講義		静脈系②、胎児循環	佐伯 和信
第 1 0 回	講義		リンパ系①	佐伯 和信
第 1 1 回	講義	(2) 神経学	神経系の概要	村井 清人
第 1 2 回	講義		神経系の概要	村井 清人
第 1 3 回	講義	(1) 脈管学	リンパ系②	佐伯 和信
第 1 4 回	講義	(2) 神経学	脊髄、脊髄神経	佐伯 和信
第 1 5 回	講義		脊髄神経	佐伯 和信
第 1 6 回	講義		脊髄神経	佐伯 和信
第 1 7 回	講義		脊髄神経	佐伯 和信
第 1 8 回	講義		感覚器：外皮、嗅覚器	村井 清人
第 1 9 回	講義		視覚器	村井 清人
第 2 0 回	講義		平衡聴覚器	村井 清人
第 2 1 回	講義		脳神経	村井 清人
第 2 2 回	講義		脳神経	村井 清人
第 2 3 回	講義		脳神経	村井 清人
第 2 4 回	講義		自律神経系	村井 清人
第 2 5 回	講義		大脳	村井 清人

第26回	講義		大脳	村井 清人
第27回	講義		大脳	村井 清人
第28回	講義		脳幹・小脳	村井 清人
第29回	講義		脳幹・小脳	村井 清人
第30回	講義		脳室系—髄液、脳髄膜、動・静脈	村井 清人

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100%
------------	-----------

<教科書および参考書>

教科書	平田幸男	分冊 解剖学アトラス I・II・III ヒューマン・アナトミー・アトラス 2021 (iPad アプリ)	文光堂
	坂井 建雄	プロメテウス解剖学・コアアトラス (電子版)	医学書院
参考資料	小川鼎三・他	分担 解剖学 1.2.3	金原書店
	竹内 修二	解剖学トレーニングノート第7版	医学教育出版社

授業科目	生理学Ⅲ					
担当者	松本 逸郎	所 属	活水女子大学非常勤講師、日本生理学会会員			
実務経験者の概要	実務経験(無) 作業療法士および理学療法士としての実務は経験ない。 長崎大学医学部勤務 42 年。最終職階は同大医歯薬総合研究科准教授。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	後期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	生理学Ⅰに続いて、より高度に調節された機能である消化・吸収、腎臓・体液、酸・塩基平衡、内分泌、免疫系の生理・病態生理について学ぶ。
到達目標	作業療法士および理学療法士としての専門的知識・技術を理解できる基礎的学力を身につけることが出来る。
学生への要望	講義のプリント（パワーポイントで作成した図）と内蔵機能の概要・ポイントを予め配信するので、予習しておくこと。併せて各々の講義单元ごとに小テスト問題を提示するので、解答を提出すること。分からないことがあれば、講義中でも終了後でも良いので質問すること。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第1回	講義	消化・吸収Ⅰ：消化管の運動（嚥下、蠕動、排便、下痢、嘔吐）	松本逸郎
第2回	講義	消化・吸収Ⅱ：消化と吸収（嚥下、食道、胃、）	松本逸郎
第3回	講義	消化・吸収Ⅲ:消化と吸収（小腸、結腸、排便）	松本逸郎
第4回	講義	肝・胆・膵：肝臓・胆嚢・膵臓の機能、消化管ホルモンによる調節	松本逸郎
第5回	講義	腎臓Ⅰ：ネフロン、糸球体濾過、傍糸球体装置	松本逸郎
第6回	講義	腎臓Ⅱ：再吸収と電解質バランス、排尿	松本逸郎
第7回	講義	腎臓Ⅲ：クリアランス	松本逸郎
第8回	講義	腎臓Ⅳ：血圧調節、ホルモン産生（エリスロポエチン、ビタミンD3）	松本逸郎
第9回	講義	酸・塩基平衡：呼吸性酸塩基平衡異常、代謝性酸塩基平衡異常、肺と腎臓の代償作用	松本逸郎
第10回	講義	内分泌Ⅰ：視床下部－下垂体前葉・後葉－甲状腺	松本逸郎
第11回	講義	内分泌Ⅱ：視床下部－下垂体－副腎(皮質と髄質)	松本逸郎
第12回	講義	内分泌Ⅲ：視床下部－下垂体－性腺	松本逸郎
第13回	講義	内分泌Ⅳ：成長、糖代謝、骨代謝とCa ²⁺ 代謝	松本逸郎
第14回	講義	リンパ球と免疫	松本逸郎
第15回		まとめ	

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 90% 小テストのレポート課題 10%
------------	--------------------------

<教科書および参考書>

教科書	武田 裕子 人体の構造と機能(1) 解剖生理学 第5版	メディカ出版
参考資料	竹内修二 生理学トレーニングノート	医学教育出版社
	坂井建雄 系統看護学 人体の構造と機能(1) 解剖生理学	医学書院

授業科目	運動学Ⅱ					
担当者	福島 浩満	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 急性期クリニックと回復期リハビリテーション病棟を持つ病院で作業療法士として勤務した経験を持つ。主に脳血管疾患と整形疾患患者への評価・治療の経験をもとに講義を実施する。					
学科名	作業療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	後期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	前期で学んだ内容を踏まえ、四肢と体幹の運動学の講義、演習を通し、より身体の運動に対する知識を深めていく。実際に四肢、体幹の骨・筋・腱の触診ができるようにする。
到達目標	人体の構造を理解し、関節運動がどのようにして発生しているのか、力学的に説明することができる。
学生への要望	前期履修した運動学、解剖学、生理学の内容を復習し、理解しておくこと。演習が行われる回は指定された服装を準備すること。 各学習領域で課題を出す。自ら調べ、考えて作成し、予習・復習に繋げて欲しい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	上肢帯の運動、筋活動	福島 浩満
第 2 回	講義	肩関節の運動、筋活動	福島 浩満
第 3 回	演習	上肢帯・肩関節の触診	福島 浩満
第 4 回	講義	肘関節の運動、筋活動	福島 浩満
第 5 回	講義	手関節の運動、筋活動	福島 浩満
第 6 回	演習	肘・手関節の触診	福島 浩満
第 7 回	講義	下肢帯・股関節の運動、筋活動	福島 浩満
第 8 回	講義	膝の運動、筋活動	福島 浩満
第 9 回	講義	足関節の運動、筋活動	福島 浩満
第 1 0 回	演習	下肢の触診	福島 浩満
第 1 1 回	講義	体幹（頸部）の運動、筋活動	福島 浩満
第 1 2 回	講義	体幹（胸部・腰部）の運動、筋活動	福島 浩満
第 1 3 回	講義	体幹の触診	福島 浩満
第 1 4 回	演習	顔面と頭部の運動、筋活動	福島 浩満
第 1 5 回	講義	まとめ	福島 浩満

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 1 0 0 %
------------	--------------

<教科書および参考書>

教科書	中村隆一	基礎運動学 第 7 版	医歯薬出版
参考資料	嶋田智明	筋骨格系のキネシオロジー 原著第 2 版	医歯薬出版

授業科目	人間発達学					
担当者	牧山 美穂	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) リハビリテーション病院にて中枢疾患、変性疾患、認知症などに対する作業療法士としての臨床経験を持つ。訪問リハビリテーション、機能訓練事業等にも従事経験がある。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	後期	総時間数	1 5 時間	

<内 容>

授業の概要	人間の発達を「運動能力」「言語」「社会性」の面から考える
到達目標	乳幼児の発達段階を理解できる。発達遅滞と発達障害について理解できる。
学生への要望	いっしょに「楽しくて身になる」時間をつくりましょう

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	イントロダクション 発達総論	牧山 美穂
第 2 回	講義	発達各論 1 成長、運動、言語、社会性	牧山 美穂
第 3 回	講義	発達各論 2 成長、運動、言語、社会性	牧山 美穂
第 4 回	講義	発達を妨げる因子 疾患	牧山 美穂
第 5 回	講義	発達を妨げる因子 社会・環境因子、医療的ケア	牧山 美穂
第 6 回	講義	発達障害 (ADHD、学習障害、自閉症スペクトラム)	牧山 美穂
第 7 回	講義	発達遅滞、発達障害にリハビリテーションは何をしてあげられるか	牧山 美穂
第 8 回	講義	まとめ	牧山 美穂

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 80% レポート課題 20%
------------	---------------------

<教科書および参考書>

教科書	資料配布
参考資料	

授業科目	臨床心理学					
担当者	長尾 博	所 属				
実務経験者の概要	実務経験(無) 1976年から現在まで50年間、精神科病院で非常勤の心理臨床家					
学科名	理学療法学科	学 年	1年	総単位数	1単位	
	作業療法学科	開講時期	後期	総時間数	30時間	

<内 容>

授業の概要	理学療法士・作業療法士として、不適応者の適応へ向けての心理学を特に学ぶ。臨床心理学とは何か、その歴史、心理面接や心理テストの内容について特に詳しく学ぶ。
到達目標	心の病いをもつ患者さんの心理的理解の方法とその対応の基礎を理解する。
学生への要望	自分が患者さんと関わったらと仮定して受講してもらいたい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第1回	講義	臨床心理学とは（未完成な学問。心理学の中心ではない）	長尾 博
第2回	講義	臨床心理学の歴史（米大リーグよりも新しい歴史の学問）	長尾 博
第3回	講義	さまざまな心の病い①（十人十色）	長尾 博
第4回	講義	さまざまな心の病い②（七色仮面）	長尾 博
第5回	講義	適応理論と不適応について（長いものに巻かれる適応）	長尾 博
第6回	講義	こころの発達について①（3つ子の魂百まで）	長尾 博
第7回	講義	こころの発達について②（思春期・青年期）	長尾 博
第8回	講義	こころの発達について③（壮年期の英語 manhood と老年期）	長尾 博
第9回	講義	心理テストについて①（なぜ心理テストをするのか）	長尾 博
第10回	講義	心理テストについて②（心理テストは当たるのか）	長尾 博
第11回	講義	心理面接の各種技法について①（カウンセリングはアドバイスではない）	長尾 博
第12回	講義	心理面接の各種技法について②（心の奥を見抜く面接）	長尾 博
第13回	講義	心理面接の各種技法について③（心を変える面接）	長尾 博
第14回	講義	まとめⅠ（国家試験に向けて）	長尾 博
第15回	講義	まとめⅡ（役に立つ仕事とは何か）	長尾 博

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100%
------------	-----------

<教科書および参考書>

教科書	長尾 博 現代臨床心理学講座（資料）
参考資料	

授業科目	病理学概論					
担当者	片瀬 直樹	所 属	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科			
実務経験者の概要	実務経験(有) 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 口腔病理学分野 助教。口腔病理専門医・指導医、分子病理医(口腔)、細胞診専門歯科医・指導医として長崎大学病院で病理診断業務に従事している。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	後期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	病理学は疾患の成り立ちを明らかにする基礎医学の一分野であると同時に患者から採取した細胞や組織の病理診断、術中病理診断、亡くなった患者の死因や治療上の疑問点を検討する病理解剖を担う臨床科の側面ももつ。このように病理学は基礎と臨床の橋渡しの学問として極めて重要である。また病理学の知識は臨床医学を理解するうえでの基礎知識となる。本講義では病理学概論として病理学総論を主体として講義するが、各論の内容も一通り扱う。
到達目標	リハビリテーションの臨床で重要な疾患の概念を簡単な表現で説明できる。
学生への要望	講義に出席する。毎回講義資料を前もって配布するので、予習として熟読してくること。最終評価には含めないが、自主学習の習慣をつけるために各単元の初めに予習テストを行う。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	病理学の概要	片瀬 直樹
第 2 回	講義	病気の原因	片瀬 直樹
第 3 回	講義	細胞・組織の障害と修復	片瀬 直樹
第 4 回	講義	循環障害	片瀬 直樹
第 5 回	講義	炎症と免疫①	片瀬 直樹
第 6 回	講義	炎症と免疫②	片瀬 直樹
第 7 回	講義	感染症	片瀬 直樹
第 8 回	講義	代謝異常	片瀬 直樹
第 9 回	講義	先天異常、老化と死	片瀬 直樹
第 1 0 回	講義	腫瘍①	片瀬 直樹
第 1 1 回	講義	腫瘍②	片瀬 直樹
第 1 2 回	講義	病理学各論①	片瀬 直樹
第 1 3 回	講義	病理学各論②	片瀬 直樹
第 1 4 回	講義	病理学各論③	片瀬 直樹
第 1 5 回	講義	まとめ	片瀬 直樹

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 1 0 0 %
------------	--------------

<教科書および参考書>

教科書	大橋健一 系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 第 6 版	医学書院
参考資料	梶原博毅 標準 PT・OT 専門基礎分野 病理学 第 4 版	医学書院

授業科目	内科学 I					
担当者	井手 政利	所 属	井手内科クリニック			
実務経験者の概要	実務経験(有) 長崎労災病院、虹ヶ丘病院で内科医として勤務して、現在は井手内科クリニックの院長として診療を行っている。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	後期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	内科学は臨床医学の中心となる学問である。また、リハビリテーションの対象となる患者の多くは内科疾患を合併しており、患者評価やリハビリ計画の実践にも内科全般にわたる正しい知識が必要であり、これらの点から内科学は理学療法士・作業療法士にとってきわめて重要な科目である。病態の理解を中心とした生きた知識を身につける必要がある。教科書で足りない部分はプリントで補って授業を進めている。
到達目標	内科疾患について、簡単に表現で説明できる。
学生への要望	高校までの受身の学習と違い、専門学校は自ら学ぶ姿勢がきわめて重要である。内科学は範囲が広く、期末試験前の一夜漬けで期末試験を乗り切るのは困難である。また、内科学の知識は試験が終われば忘れてよい知識ではなく、臨床実習でも、さらにプロの医療職としても欠かせない基本的知識である。日頃の地道な勉強で生きた知識を身につけることが内科学学習の鉄則である。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	感染症総論	井手 政利
第 2 回	講義	感染症各論 1：細菌感染症等	井手 政利
第 3 回	講義	感染症各論 2：ウイルス感染症等	井手 政利
第 4 回	講義	循環器疾患：解剖、生理、症候	井手 政利
第 5 回	講義	循環器診断法 その 1	井手 政利
第 6 回	講義	循環器診断法 その 2	井手 政利
第 7 回	講義	循環器各論 (I)	井手 政利
第 8 回	講義	循環器各論 (II)	井手 政利
第 9 回	講義	呼吸器総論	井手 政利
第 1 0 回	講義	呼吸器各論 (I)	井手 政利
第 1 1 回	講義	呼吸器各論 (II)	井手 政利
第 1 2 回	講義	アレルギー疾患、膠原病、免疫不全症 (I)	井手 政利
第 1 3 回	講義	アレルギー疾患、膠原病、免疫不全症 (II)	井手 政利
第 1 4 回	講義	アレルギー疾患、膠原病、免疫不全症 (III)	井手 政利
第 1 5 回	講義	まとめ	井手 政利

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 1 0 0 %
------------	--------------

<教科書および参考書>

教科書	前田眞治ほか 標準 PT・OT シリーズ 内科学 第 4 版 プリント配布	医学書院
参考資料		

授業科目	整形外科学 I					
担当者	衛藤 正雄	所 属	済生会長崎病院			
実務経験者の概要	実務経験(有) 長崎大学病院、済生会長崎病院などで整形外科医として経験している。臨床現場の経験をもとに整形外科領域における教育・指導を行っている。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	後期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	整形外科学全般
到達目標	整形外科の基礎を学習・理解すること
学生への要望	授業をよく聞き、大切な個所をチェックする。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	総論 整形外科学的診断学、整形外科学的緒療法	衛藤 正雄
第 2 回	講義	各論 軟部組織損傷	衛藤 正雄
第 3 回	講義	各論 骨関節の損傷総論	衛藤 正雄
第 4 回	講義	各論 肩関節および上腕 1	衛藤 正雄
第 5 回	講義	各論 肩関節および上腕 2	衛藤 正雄
第 6 回	講義	各論 肘関節および前腕	衛藤 正雄
第 7 回	講義	各論 手関節と手指	衛藤 正雄
第 8 回	講義	各論 股関節および大腿 1	衛藤 正雄
第 9 回	講義	各論 股関節および大腿 2	衛藤 正雄
第 1 0 回	講義	各論 膝関節および下腿 1	衛藤 正雄
第 1 1 回	講義	各論 膝関節および下腿 2	衛藤 正雄
第 1 2 回	講義	各論 足関節と足部	衛藤 正雄
第 1 3 回	講義	各論 慢性疼痛疾患、スポーツ整形外科、障害者スポーツ	衛藤 正雄
第 1 4 回	講義	まとめ	衛藤 正雄
第 1 5 回	講義	まとめ	衛藤 正雄

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 1 0 0 %
------------	--------------

<教科書および参考書>

教科書	高橋邦泰 他	整形外科学テキスト 改訂第 5 版	南江堂
参考資料			

授業科目	神経内科学 I					
担当者	佐藤 聡・富田 逸郎・瀬戸 牧子・ 佐藤 秀代	所 属	長崎北病院			
実務経験者の概要	実務経験(有)長崎北病院で神経内科医師として診療にあたっている。20年にわたり、当校で講義・指導にあたっている。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	後期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	理学療法士、作業療法士として最低知っておくべき神経内科学の総論的事項の講義を行う。
到達目標	理学療法士、作業療法士の実務に必要な神経内科の知識を習得する。
学生への要望	授業を単に聞くのではなく、重要な点はノート・メモをしっかりとって欲しい。また、過去問は出題者のメッセージである。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	中枢神経系の解剖と機能(1)	富田 逸郎
第 2 回	講義	中枢神経系の解剖と機能(2)	富田 逸郎
第 3 回	講義	神経学診断と評価(1)	富田 逸郎
第 4 回	講義	神経学診断と評価(2)	佐藤 聡
第 5 回	講義	神経学的検査法	富田 逸郎
第 6 回	講義	意識障害、脳死、植物状態、頭痛、めまい、失神	富田 逸郎
第 7 回	講義	運動麻痺、錐体路症状、筋萎縮	富田 逸郎
第 8 回	講義	錐体外路症状、不随意運動、運動失調	富田 逸郎
第 9 回	講義	感覚障害、失語症	富田 逸郎
第 10 回	講義	失認、失行	富田 逸郎
第 11 回	講義	記憶障害、注意障害、遂行機能障害	富田 逸郎
第 12 回	講義	構音障害、嚥下障害、球麻痺、脳外科領域疾患	富田 逸郎
第 13 回	講義	知能検査、認知症	富田 逸郎
第 14 回	講義	補講	富田 逸郎
第 15 回		まとめ	富田 逸郎

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験	100%
------------	------	------

<教科書および参考書>

教科書	川平 和美	PT・OT 専門基礎分野 神経内科学 第6版	医学書院
参考資料	田崎 義昭	ベッドサイドの神経の診かた	南山堂

授業科目	精神医学総論					
担当者	岩阪 真大	所 属	出口病院			
実務経験者の概要	実務経験(有) 作業療法士として精神科病院等に従事し、精神障害者のリハビリテーションに携わった。					
学科名	理学療法学科	学 年	1	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	後期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	主な精神症状や精神疾患の特徴および治療について学び、精神障害への理解を深める。
到達目標	代表的な精神障害の精神症状や特徴が説明できるようになる。 精神症状を呈する方への適切な対応ができるための理解を目指す。
学生への要望	ひとの精神機能および障害について理解を深めるために、名称はきちんと読めるようになること。わからない用語は、教科書や辞書で調べる習慣を身に付けてほしい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	精神医学とは 精神疾患の分類	岩阪 真大
第 2 回	講義	精神機能の障害と精神症状①	岩阪 真大
第 3 回	講義	精神機能の障害と精神症状②	岩阪 真大
第 4 回	講義	器質性精神障害	岩阪 真大
第 5 回	講義	精神作用物質による精神および行動の障害	岩阪 真大
第 6 回	講義	統合失調症	岩阪 真大
第 7 回	講義	気分(感情)障害	岩阪 真大
第 8 回	講義	心身症、神経症性障害	岩阪 真大
第 9 回	講義	摂食障害、睡眠障害	岩阪 真大
第 1 0 回	講義	パーソナリティ障害	岩阪 真大
第 1 1 回	講義	心理的発達障害	岩阪 真大
第 1 2 回	講義	ライフサイクルにおける精神医学	岩阪 真大
第 1 3 回	講義	治療とリハビリテーション① (薬物療法、身体療法)	岩阪 真大
第 1 4 回	講義	治療とリハビリテーション② (精神療法)	岩阪 真大
第 1 5 回	講義	まとめ	岩阪 真大

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100%
------------	-----------

<教科書および参考書>

教科書	上野武治；標準理学療法学・作業療法学 精神医学 第 4 版増補版 医学書院
参考資料	太田保之・他；学生のための精神医学 第 3 版、医歯薬出版 野村総一郎・他；標準精神医学 第 7 版、医学書院 上島国利・他；精神医学テキスト[改訂第 4 版]、南江堂 武田雅俊；精神医学マイテキスト 改訂第 2 版、金芳堂 落合慈之；精神神経疾患 ビジュアルブック、学研メディカル秀潤社

授業科目	小児科学					
担当者	小柳 憲司	所 属	長崎県立こども医療福祉センター			
実務経験者の概要	実務経験(有) 一般病院・小児専門病院における一般小児科診療および小児心療科専門診療(現職)、長崎大学医学部・教育学部、佐賀大学医学部非常勤講師(現職)、児童相談所嘱託医(経験)					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	後期	総時間数	1 5 時間	

<内 容>

授業の概要	理学療法士・作業療法士国家試験出題基準に準拠しながら、療法士として子どもの治療を行うにあたって必要な知識だけでなく、人として子どもと家族に関わるときに大切なことや、将来親となり子育てを行うときに役立つ知識が得られるような講義を行う。「子どもは小さな大人ではない」と言われるが、子どもを常に成長・発達していく存在として見ていけるようになることをめざす。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの正常発達について知り、発達の異常を見分けることができる。 ・医療従事者として必要な子どもの病気についての知識を持ち、医療現場で他のスタッフと共通言語でコミュニケーションが取れるようになる。 ・感染症やけいれん発作、虐待の疑いがある場合などに適切な対応がとれるようになる。
学生への要望	講義はスライドを用いて行う。スライド映写中に口頭で説明した内容を配布資料に書き込んだり、線を引いたりしながら講義を聞いてほしい。その部分が試験において(もちろん実臨床においても)重要な事項となる。予習は不要だが、講義を聞いて興味をもった分野については、参考書等を読み、知識を広げるよう努力してほしい。各回の講義後に小テストを行う。定期試験は原則、国家試験形式の選択問題とする。評価は小テストと定期試験で行う。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	子どもを診るとはどういうことか(小児科概論) 正常発達、乳幼児健診、予防接種など、全般的注意事項、基礎知識について	小柳 憲司
第 2 回	講義	新生児・未熟児・循環器疾患・消化器疾患 新生児・未熟児医療の実際と乳児期に明らかになる先天異常としての循環器疾患・消化器疾患について	小柳 憲司
第 3 回	講義	子どもによくある病気(感染症) 子ども時代によく罹患する、ウイルス・細菌感染症について	小柳 憲司
第 4 回	講義	免疫・アレルギー疾患・腫瘍性疾患 免疫機序が関与する、アレルギー疾患・自己免疫疾患、および子どもに多い腫瘍性疾患について	小柳 憲司
第 5 回	講義	染色体異常・遺伝性疾患 遺伝子に関わる、染色体異常・先天奇形症候群について	小柳 憲司
第 6 回	講義	神経・筋疾患 中枢神経系の発生異常・水頭症・神経皮膚症候群・てんかん・筋ジストロフィーなどの神経筋疾患について	小柳 憲司

第7回	講義	脳性麻痺・重症心身障害児 脳性麻痺・重症心身障害児とその治療、および療育について	小柳 憲司
第8回	講義	子どものこころの諸問題 発達障害（神経発達症）・心身症・精神疾患・子ども虐待など、子どものこころの問題全般について	小柳 憲司

<評価方法>

成績評価・方法・基準	小テスト40% 定期試験60%
------------	-----------------

<教科書および参考書>

教科書	
参考資料	富田 豊 標準理学療法学・作業療法学 小児科学 医学書院

授業科目	外科学					
担当者	田口 憲士・他	所 属	長崎大学病院 外傷センター			
実務経験者の概要	実務経験(有) 長崎大学病院や長崎労災病院などで整形外科や救急医療の経験を有する。資格として、整形外科専門医、厚生労働省認定臨床研修指導医、JATEC プロバイダーを取得。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	後期	総時間数	15 時間	

<内 容>

授業の概要	外科学と内科学の違いは、主として治療手段の違いであって、近年、両者の差は小さくなっているといえる。両教科の授業内容を合わせて臨床医学の概念が頭に入るように、外科学の授業は外科領域に特有の総論的なテーマを中心に学習することとしている。各論の内容は内科学と重複する部分も多い。この部分は内科学でしっかり学習してほしい。
到達目標	創傷、熱傷、感染、出血・輸血、腫瘍に関する基礎的及び診療に関する標準的知識を習得する。心臓外科に関してそのアウトラインを学ぶ予定である。昨年より新型コロナウイルス感染に関連して感染の時間を増やし、心臓外科の部分を減らしている。
学生への要望	外科学は、内科学や整形外科学に比べるとリハビリテーションとの関係が薄いように感じられるかも知れないが、現代医学の中で重要な位置を占めており、外科の知識と技術は君たちが医療現場に出てもぜひ必要なものである。私自身の40年に及ぶ外科医としての体験を含め、「外科とは何か」という問題を君たちと一緒に考えてみたいと思う。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第1回	講義	外科の特徴、外科の歴史、外科治療の特殊性	中村 瞬
第2回	講義	損傷（原因、分類、重症度、治療）	田口 憲士
第3回	講義	熱傷（原因、分類、重症度、治療）	岩尾 敦彦
第4回	講義	感染対策（滅菌と消毒、院内感染予防対策）	藤田 あゆみ
第5回	講義	出血・止血・輸血（種類、検査、方法、副作用、対策）	山野 修平
第6回	講義	腫瘍（1）（良性腫瘍と悪性腫瘍、がんの病態、疫学など）	中村 瞬
第7回	講義	腫瘍（2）（良性腫瘍と悪性腫瘍、がんの病態、疫学など）	中村・田口・岩尾・ 藤田・山野
第8回	講義	まとめ	中村・田口・岩尾・ 藤田・山野

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100%
------------	-----------

<教科書および参考書>

教科書	オリジナル資料
参考資料	

授業科目	脳神経外科学					
担当者	陶山 一彦	所 属	長崎みなとメディカルセンター			
実務経験者の概要	実務経験(有) 長崎みなとメディカルセンター 脳神経外科主任診療科長 これまで、長崎大学病院、長崎県島原病院、国立長崎医療センター、長崎労災病院での診療経験がある。長崎大学では大学院医歯薬学総合研究科神経病態制御外科学准教授として、医学生への講義を行っていた。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	後期	総時間数	15 時間	

<内 容>

授業の概要	脳神経外科学についての知識を深め、実践に役立てる。
到達目標	脳神経外科学の基本概念や代表疾患の病態生理、症候、治療など基礎的知識を習得し、リハビリテーションの臨床現場で活用できるように備える。
学生への要望	考える習慣をつけ、不明な点は早めに解決しましょう。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	神経の臨床解剖と画像	陶山 一彦
第 2 回	講義	神経の症候	陶山 一彦
第 3 回	講義	脳血管障害（総論・脳梗塞）	陶山 一彦
第 4 回	講義	脳血管障害（脳出血・くも膜下出血・リハビリテーション）	陶山 一彦
第 5 回	講義	頭部外傷	陶山 一彦
第 6 回	講義	脳腫瘍	陶山 一彦
第 7 回	講義	小児脳神経外科	陶山 一彦
第 8 回	講義	まとめ	陶山 一彦

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100%
------------	-----------

<教科書および参考書>

教科書	井手隆文 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 脳・神経 医学書院 プリント配布
参考資料	

授業科目	基礎作業学 I					
担当者	三岳 直也・他	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 精神分野や高齢期、発達支援等の様々な経験を有する教員で講義を担当している。臨床での経験や実務内容を踏まえて作業の特性などを講義で話し、演習を通じて作業の奥深さを伝えたい。					
学科名	作業療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	後期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	作業に関する基礎知識についての理解を図る。各種の作業活動の技法を学び、作業療法の治療に用いるための多面的に分析する能力を養う。
到達目標	作業活動を作業療法で用いる意味を説明できる。 作業活動を包括的作業分析の視点で捉えて、説明できる。
学生への要望	課題レポートや作品は期限を守り、真面目に取り組むこと。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	作業とは	三岳 直也
第 2 回	講義	ひとと作業	三岳 直也
第 3 回	講義	作業の知	三岳 直也
第 4 回	講義	作業と生活機能	三岳 直也
第 5 回	演習	刺し子	三岳・白石
第 6 回	演習	作業を分析する①	三岳 直也
第 7 回	講義	切り絵①	三岳・白石
第 8 回	演習	切り絵②	三岳・白石
第 9 回	講義	作業を分析する②	三岳 直也
第 1 0 回	演習	ちぎり絵	三岳・白石
第 1 1 回	演習	作業を分析する③	三岳 直也
第 1 2 回	講義	ロールピクチャー①	三岳・白石
第 1 3 回	演習	ロールピクチャー②	三岳・白石
第 1 4 回	講義	作業を分析する④	三岳 直也
第 1 5 回	講義	まとめ	三岳 直也

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 80% レポート課題 20%
------------	---------------------

<教科書および参考書>

教科書	山根 寛	ひとと作業・作業活動 新版	三輪書店
参考資料	日本作業療法士協会	作業－その治療的応用 改訂第2版	協同医書出版

授業科目	作業療法概論Ⅱ					
担当者	淡野 義長	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 各期にて臨床実践を経験。リハセンター、急性期、回復期、老健での勤務から脊損、RA、神経難病、外傷、神経疾患、小児麻痺、切断、脳卒中などへの対応経験を有する。通所、訪問の経験やOT管理者経験もある。養成校での勤務経験もあるので、幅広い視野での講義を展開する。					
学科名	作業療法学科	学 年	1 学年	総単位数	1 単位	
		開講時期	前期	総時間数	15 時間	

<内 容>

授業の概要	作業療法の概要を特理解し、作業療法士という専門職としての基本的姿勢を身につける。各講義を通して作業療法の意味や役割、臨床実習に向けての基本的知識について学ぶ。
到達目標	講義内容や臨床実習Ⅰを踏まえて、作業療法士を目指す上での目標像を明確にする。
学生への要望	作業療法への興味がより高まるよう、わからない言葉は調べる、質問するなど自発的に取り組んで欲しい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第1回	講義	作業療法における「その人らしさ」の理解	淡野 義長
第2回	講義	作業療法の資質と職業倫理、社会人基礎力とその必要性	淡野 義長
第3回	講義	作業療法における用具や環境への対応	淡野 義長
第4回	講義	認知症サポーター養成講座（実習前2週間の時期）	小島・茂木地域包括支援センター
第5回	講義	作業の理解と分析	淡野 義長
第6回	演習	作業療法士のキャリアデザイン	淡野 義長
第7回	演習	作業療法の職域とこれからの作業療法	淡野 義長
第8回	演習	まとめ	淡野 義長

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 80% レポート課題 20%
------------	---------------------

<教科書および参考書>

教科書	日本 OT 協会 作業療法学全書改定第3版 作業療法概論 協同医書出版
参考資料	長崎重信 作業療法学 ゴールドマスターテキスト 作業療法学概論第3版 メジカルビュー社

授業科目	身体機能評価学Ⅱ					
担当者	福島 浩満、他	所属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 急性期クリニックと回復期リハビリテーション病棟を持つ病院で作業療法士として勤務した経験を持つ。主に脳血管疾患と整形疾患患者への評価・治療の経験をもとに講義を実施する。					
学科名	作業療法学科	学年	1	総単位数	1 単位	
		開講時期	後期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	評価の目的・意義を理解すること、評価に求められる知識と技術を身に付けること、対象者に応じた評価法の選択と計画ができるようになることを学ぶ。
到達目標	基本的技法を身に付け、方法だけでなくなぜその評価が対象者に必要なのかという視点まで考えることができるようになる。
学生への要望	予習・復習をすること。講義と演習の時間だけでは修得することは難しい。学生同士で協力して積極的に練習して欲しい。

<講義計画>

回数	授業形態	内 容	担 当
第1回	講義	評価の目的および意義/面接・観察	鍵山
第2回	演習	形態測定(身長・体重・四肢長・周径)	福島
第3回	演習	感覚検査	鍵山
第4回	演習	片麻痺機能検査(Brunnstrom stage)	福島
第5回	演習	筋緊張検査	鍵山
第6回	演習	腱反射、病的反射	福島
第7回	演習	姿勢反応、バランス評価	鍵山
第8回	演習	関節可動域測定①(上肢①)	福島
第9回	演習	関節可動域測定②(上肢②・手指)	福島
第10回	演習	関節可動域測定③(下肢・足趾)	鍵山
第11回	演習	関節可動域測定④(頸部・体幹)	鍵山
第12回	演習	痛みの評価	鍵山
第13回	講義	脳卒中の機能評価(SIAS)	福島
第14回	講義	各評価法の振り返り	福島、鍵山
第15回		まとめ	福島、鍵山

<評価方法>

成績評価・方法・基準	筆記試験 60% 実技試験 40%
------------	-------------------

<教科書および参考書>

教科書	矢谷令子	標準作業療法学 身体機能作業療法学 第3版	医学書院
	田崎義昭	ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版	南山堂
参考資料	潮見泰蔵	リハビリテーション基礎評価学 第1版	羊上社

授業科目	精神機能評価学Ⅱ					
担当者	三岳 直也	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 精神・高齢期分野の病院にて作業療法士として従事しており、統合失調症・双極性障害・認知症等の作業療法を担当していた。臨床での経験を活かし、疾患の基本や関わり方等を講義で話していきたい。					
学科名	作業療法学科	学 年	1 学年	総単位数	1 単位	
		開講時期	後期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	精神科領域の対象者理解に求められる評価について学び。治療場面から生活場面まで、幅広い評価のうち、現在多く使用されているものの中で、学生が実施可能なものを中心に学ぶ。
到達目標	それぞれの評価手段の特徴を学び実践できるようになる。
学生への要望	臨床心理学や精神医学、精神治療学などと関連性が高いものです。対象者像をイメージできるように予習・復習を行い、わからない言葉や単語は調べて理解しておいて下さい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	精神科作業療法の概要	三岳 直也
第 2 回	講義	精神領域での評価項目	三岳 直也
第 3 回	講義	評価の手段 情報収集	三岳 直也
第 4 回	講義	面接①（構造、形態、種類）	三岳 直也
第 5 回	講義	面接②（構成的作業面接、投影的作業面接）	三岳 直也
第 6 回	講義	面接③（ニーズ、デマンドの評価 COPM・MTDLP）	三岳 直也
第 7 回	講義	観察①（活動機能）	三岳 直也
第 8 回	講義	観察②（参加機能、集団の構造）	三岳 直也
第 9 回	講義	検査①（統合失調症、気分障害、社会生活能力）	三岳 直也
第 1 0 回	講義	評価体験①	三岳 直也
第 1 1 回	講義	評価体験②	三岳 直也
第 1 2 回	講義	評価体験③	三岳 直也
第 1 3 回	講義	検査②（自己効力感、気分と疲労）	三岳 直也
第 1 4 回	講義	記録（SOAP）	三岳 直也
第 1 5 回	講義	まとめ	三岳 直也

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100%
------------	-----------

<教科書および参考書>

教科書	山根 寛	精神障害と作業療法 新版	三輪書店
参考資料	堀田 英樹	精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版	中央法規

授業科目	日常生活活動Ⅱ					
担当者	白石 昌子	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 急性期、回復期、地域包括ケア、外来リハ、訪問リハ、通所介護、認知症疾患医療センター勤務を通して、医療～介護まで幅広く経験。とくに高齢者・認知症・地域リハに従事した経験が多い。					
学科名	作業療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	後期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	2 年次の疾患別 ADL 学習に備え、住環境や日常生活動作の各動作について学ぶ。代表的な ADL 評価法・環境調整法・介入方法の知識を習得し、演習を通して理解を深める。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・くらしのなかで行われる日常生活活動について、含まれる要素や評価すべき点がわかる。 ・代表的な評価法を理解し、活用することができる。 ・日常生活活動の課題を分析し、標準的な援助方法を実践できる。
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な日常生活の様々な活動について、興味を持って学んでほしい。 ・演習やグループワークなど主体的に取り組んでもらいたい。 ・実習室での授業時はユニフォームを着用し、身なりを整えておくこと。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	復習と概要説明、課題発表	白石 昌子
第 2 回	演習	住環境	白石 昌子
第 3 回	演習	起居移動動作①	白石 昌子
第 4 回	講義	起居移動動作②	白石 昌子
第 5 回	講義	食事動作	白石 昌子
第 6 回	講義	入浴動作	白石 昌子
第 7 回	講義	排泄動作	白石 昌子
第 8 回	講義	更衣動作	白石 昌子
第 9 回	講義	整容動作	白石 昌子
第 10 回	講義	コミュニケーション	白石 昌子
第 11 回	講義	BADL のまとめ	白石 昌子
第 12 回	講義	IADL について①	白石 昌子
第 13 回	講義	IADL について②	白石 昌子
第 14 回	講義	IADL について③	白石 昌子
第 15 回	講義	まとめ	白石 昌子

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 90% レポート課題 10%
------------	---------------------

<教科書および参考書>

教科書	長崎重信	OT 学ゴールドマスターテキスト 日常生活活動 (ADL)	メジカルビュー社
参考資料	伊藤利之 橋元 隆	新版 日常生活活動 (ADL) 第 2 版 評価と支援の実際 日常生活活動 (ADL)	医歯薬出版 神稜文庫

授業科目	臨床実習 I					
担当者		所 属				
実務経験者の概要	実務経験(有・無)					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	後期	総時間数	4 5 時間	

<内 容>

授業の概要	対象者に評価・治療を行うのではなく、対象者や施設・医療スタッフに対して適切な態度で接すること、診療チームの一員としての理学療法士・作業療法士の役割について学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 医療関連職種に限らず、保健、福祉などにおけるセラピストの役割・分担について見学・体験する。 ② 対象者のもつ諸問題を身体的、心理的、社会的な視点で考える。 ③ セラピストと関わる他の関連職種についての役割・分担・専門内容を見学・体験する。 ④ 医療・福祉の各施設でセラピストが関わる事業の目的、役割及びリハビリテーション運営について見学・体験する。 ⑤ 見学・体験を通じて履修した知識及び技術を確認し、第 2 学年への学習意欲を更に高める。 ⑥ セラピスト、あるいは医療・福祉従事者の概念を把握し、将来、自分が理学療法士、作業療法士として進むための自覚を高める。
学生への要望	臨床での教育は、理学療法士・作業療法士という専門職と目指す学生にとって貴重な経験だが、その場では対象者の方々の協力と先輩である専門職の方々の行為によって提供されていることを認識しておくこと。

<講義計画>

臨床実習前：臨床実習オリエンテーション
臨床実習施設：協力医療機関
一般目標 1：社会人としての行動や役割を理解する
行動目標
<ul style="list-style-type: none"> ① 身だしなみや言葉遣い等社会人としての心得を説明し、適切な行動ができる。 ② 1日の業務の流れを理解し、清掃や整理整頓、治療準備などの診療周辺業務を体験する。 ③ 臨床でしか学べないこと（メモをとる能力や相手との距離感など）を理解して、経験したことや学んだことを蓄積する。
一般目標 2：医療・保健・福祉におけるセラピストの役割、分担を体験し、理解する
行動目標
<ul style="list-style-type: none"> ① 臨床実習指導者による対象者の評価及び治療における場面を見学する。可能であれば、診療補助の体験をする。 ② カンファレンスなどに積極的に参加し、セラピストの立場や他職種から提供される情報を具体的に理解する。 ③ チームの一員としての連携方法を見学・体験し、セラピストとしての責任と自覚を高めることができる。 ④ 臨床実習施設の社会的役割と組織と運営についての概要を理解する。
一般目標 3：対象者との関わりの中で対象者の持つ課題を理解する
行動目標

- ① 回診、検査、測定、評価の見学・補助並びにカンファレンス、院内勉強会などに参加し、質問、問題討議の場を体験する。
- ② 対象者の療養室巡回、家庭訪問等の場を体験し、対象者と生活環境との関係性を理解する。
- ③ 他職種による評価や治療の場面を見学し、具体的にその職種の役割や仕事内容などを理解する。

<評価方法>

成績評価・方法・基準	臨床実習指導者の評価 40% 実習後評価 60%
------------	--------------------------

<教科書および参考書>

教科書	
参考資料	

作業療法学科 2年生 前期

授業科目	解剖学Ⅲ					
担当者	佐伯 和信	所 属	長崎大学生命医科学域			
実務経験者の概要	実務経験(無) 本授業科目について、長崎大学医学部の講師として肉眼解剖学教育の実務経験を有している。					
学科名	理学療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	解剖学Ⅰ・Ⅱの分野に続いて、内臓学領域の正常構造を、関連する簡単な機能を含めて解説する。
到達目標	内臓学に関連する各器官の名称、構造的特徴を説明できる
学生への要望	しっかりと予習と復習をして、学んだ内容をノートにまとめること。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	内臓学総論、消化器系①	佐伯 和信
第 2 回	講義	消化器系②	佐伯 和信
第 3 回	講義	消化器系③	佐伯 和信
第 4 回	講義	消化器系④	佐伯 和信
第 5 回	講義	消化器系⑤	佐伯 和信
第 6 回	講義	呼吸器系①	佐伯 和信
第 7 回	講義	呼吸器系②	佐伯 和信
第 8 回	講義	呼吸器系③	佐伯 和信
第 9 回	講義	泌尿器系①	佐伯 和信
第 10 回	講義	泌尿器系②	佐伯 和信
第 11 回	講義	生殖器系①	佐伯 和信
第 12 回	講義	生殖器系②	佐伯 和信
第 13 回	講義	生殖器系③	佐伯 和信
第 14 回	講義	生殖器系④	佐伯 和信
第 15 回	講義	内分泌系	佐伯 和信

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100%
------------	-----------

<教科書および参考書>

教科書	分冊 解剖学アトラスⅠ・Ⅱ・Ⅲ 平田幸男 文光堂 ヒューマン・アナトミー・アトラス 2021 (iPad アプリ)
参考資料	分担 解剖学 1.2.3 小川鼎三・他 金原書店

授業科目	解剖学演習					
担当者	佐伯和信・高村敬子	所 属	長崎大学生命医科学域			
実務経験者の概要	実務経験(無)					
学科名	理学療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	45 時間	

<内 容>

授業の概要	解剖学標本を観察させていただくことにより、人体諸器官の正常構造およびそれぞれの器官の関連性について学習する。
到達目標	人体の構造について、その実際を肉眼解剖学的見地から説明できるようになる。
学生への要望	実習前までに解剖標本見学実習ノートを作成し、しっかりと事前学習すること。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第1回	講義	実習オリエンテーション	常勤教員
第2回	講義	事前オリエンテーション	常勤教員
第3回	講義	直前オリエンテーション	常勤教員
第4回	演習	解剖学復習と解剖ノート作成①	常勤教員
第5回	演習	解剖学復習と解剖ノート作成②	常勤教員
第6回	演習	解剖学復習と解剖ノート作成③	常勤教員
第7回	演習	解剖学復習と解剖ノート作成④	常勤教員
第8回	演習	解剖学復習と解剖ノート作成⑤	常勤教員
第9回	演習	解剖学復習と解剖ノート作成⑥	常勤教員
第10回	演習	解剖学復習と解剖ノート作成⑦	常勤教員
第11回	演習	解剖学復習と解剖ノート作成⑧	常勤教員
第12回	演習	解剖学復習と解剖ノート作成⑨	常勤教員
第13回	実習	胸腹部、内蔵、脳・脊髄	常勤教員
第14回	実習	胸腹部、内蔵、脳・脊髄	常勤教員
第15回	実習	上肢①	佐伯和信・高村敬子
第16回	実習	上肢②	佐伯和信・高村敬子
第17回	実習	上肢③、上肢関節	佐伯和信・高村敬子
第18回	実習	下肢①	佐伯和信・高村敬子
第19回	実習	下肢②	佐伯和信・高村敬子
第20回	実習	下肢③、下肢関節	佐伯和信・高村敬子
第21回	実習	頸部・背部	佐伯和信・高村敬子
第22回	実習	全身に構造について観察	佐伯和信・高村敬子
第23回	講義	まとめ	佐伯和信

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 90% ノート作成 10%
------------	--------------------

<教科書および参考書>

教科書	分冊 解剖学アトラス I・II・III	平田幸男	文光堂
参考資料	分担 解剖学 1.2.3	小川鼎三・他	金原書店

授業科目	運動学Ⅲ					
担当者	淡野 義長	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 各期にて臨床実践を経験。リハセンター、急性期、回復期、老健での勤務から脊損、RA、神経難病、外傷、神経疾患、小児麻痺、切断、脳卒中などへの対応経験を有する。通所、訪問の経験やOT管理者経験もある。養成校での勤務経験もあるので、幅広い視野での講義を展開する。					
学科名	作業療法学科	学 年	1 学年	総単位数	1 単位	
		開講時期	前期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	骨性のランドマークの位置や関節運動に関わる筋を把握し、姿勢、動作の分析に繋げる。作業療法における動作分析の位置づけを理解し、評価、治療に繋げる。
到達目標	基本動作(寝返り、起き上がり、立ち上がり、歩行)におけるメカニズムについて説明できる。正常動作と障害特性動作との違いを理解できる。
学生への要望	動作分析は経験により分析力が深まっていく。普段の日常生活動作から常に分析を意識し、イメージトレーニングを実践する。また、運動学や解剖学等一年次の学習内容の知識は必須であるので復習を実践し、分析の視点に役立てる。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第1回	演習	上肢・下肢・頭頸部・体幹の骨性ランドマークと筋の触察①	淡野 義長
第2回	演習	上肢・下肢・頭頸部・体幹の骨性ランドマークと筋の触察②	淡野 義長
第3回	講義	運動力学の基礎	淡野 義長
第4回	講義	姿勢と保持	淡野 義長
第5回	講義	寝返り、起き上がり①	淡野 義長
第6回	演習	寝返り、起き上がり②	淡野 義長
第7回	講義	立ち上がり①	淡野 義長
第8回	演習	立ち上がり②	淡野 義長
第9回	講義	歩行分析①	淡野 義長
第10回	演習	歩行分析②	淡野 義長
第11回	講義	歩行分析③	淡野 義長
第12回	講義	歩行分析④	淡野 義長
第13回	講義	異常歩行と評価のポイント	淡野 義長
第14回	講義	脳血管障害後片麻痺の姿勢・動作の特徴と分析	淡野 義長
第15回		まとめ	淡野 義長

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 90% 提出課題 10%
------------	-------------------

<教科書および参考書>

教科書	石川 朗 理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学 中山書店
参考資料	石川 朗 理学療法・作業療法学テキスト 運動学実習 中山書店
	隈元庸夫 症例動作分析 動画から学ぶ姿勢と動作 ヒューマン・プレス 臨床歩行分析研究会 PT・OT ビジュアルテキスト 姿勢・動作・歩行分析 第1版 羊土社

授業科目	内科学Ⅱ					
担当者	井手 政利 藤本 健志	所 属	井手内科クリニック 長与病院			
実務経験者の概要	実務経験(有) 長崎労災病院、虹ヶ丘病院で内科医として勤務して、現在は井手内科クリニックの院長として診療を行っている。					
学科名	理学療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	1年後期に引き続き、消化器系疾患および系統的疾患を学習する。 教科書は1年後期と同じものを使用し、プリントを併用することも前回と同様である。 1年後期と同じく、断片的知識よりも、病態の理解を中心に授業を進める方針である。
到達目標	消化器疾患、代謝性疾患、内分泌疾患、血液・造血器疾患などについて病因、病態、診断、治療、予後を系統的に学習し、内部障害との関連を整理する。
学生への要望	学習すべき内容が多いのは2年前期も1年後期と同様である。3年という期間で国家試験合格の力をつけるのは容易なことではなく、内科学の知識は国家試験一般問題の根幹をなす重要部分であることを認識し、あと2年の期間を有効に活用する必要がある。成績がよい学生と留年する学生の違いは「頭の良さ」などではなく、日々学習する習慣が身についているかいないかの違いである。気合を入れ直して授業に臨んでほしい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第1回	講義	消化器疾患1 (総論)	井手 政利
第2回	講義	消化器疾患2 (各論1)	井手 政利
第3回	講義	消化器疾患3 (各論2)	井手 政利
第4回	講義	肝胆膵疾患1 (解剖生理)	井手 政利
第5回	講義	肝胆膵疾患2 (各論1)	井手 政利
第6回	講義	肝胆膵疾患3 (各論2)	井手 政利
第7回	講義	血液・造血器疾患1 (総論)	藤本 健志
第8回	講義	血液・造血器疾患2 (各論)	藤本 健志
第9回	講義	代謝性疾患1	井手 政利
第10回	講義	代謝性疾患2	井手 政利
第11回	講義	内分泌疾患1 (総論)	井手 政利
第12回	講義	内分泌疾患2 (各論)	井手 政利
第13回	講義	腎・泌尿器疾患1	井手 政利
第14回	講義	腎・泌尿器疾患2、演習問題	井手 政利
第15回	講義	まとめ	井手・藤本

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100% レポート課題 0%
------------	---------------------

<教科書および参考書>

教科書	前田英治ほか プリント配布	標準 PT・OT シリーズ 内科学 第3版	医学書院
参考資料			

授業科目	整形外科学 II					
担当者	衛藤 正雄	所 属	済生会長崎病院			
実務経験者の概要	実務経験(有) 長崎大学病院、済生会長崎病院などで整形外科医として経験している。臨床現場の経験をもとに整形外科領域における教育・指導を行っている。					
学科名	理学療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	整形外科一般（基礎、診断、治療、リハビリ）
到達目標	整形外科の基礎を学習・理解すること
学生への要望	授業をよく聞き、大切な個所をチェックする。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	各論 脊椎・脊髄 構造と機能、外傷	衛藤 正雄
第 2 回	講義	各論 脊椎・脊髄 疾患 1	衛藤 正雄
第 3 回	講義	各論 脊椎・脊髄 疾患 2	衛藤 正雄
第 4 回	講義	各論 骨盤、慢性疾患	衛藤 正雄
第 5 回	講義	慢性関節疾患、リウマチとその類縁疾患 1	衛藤 正雄
第 6 回	講義	各論 リウマチとその類縁疾患 2	衛藤 正雄
第 7 回	講義	各論 感染症、代謝・内分泌疾患	衛藤 正雄
第 8 回	講義	ロコモティブシンドロームと運動器不安定症、骨・軟部腫瘍 1	衛藤 正雄
第 9 回	講義	各論 骨・軟部腫瘍 2	衛藤 正雄
第 1 0 回	講義	各論 神経疾患・筋疾患 末梢神経	衛藤 正雄
第 1 1 回	講義	各論 神経疾患・筋疾患 特殊な外傷、脳性麻痺、筋ジストロフィー	衛藤 正雄
第 1 2 回	講義	各論 骨系統疾患、骨壊死疾患および四肢欠損	衛藤 正雄
第 1 3 回	講義	各論 四肢循環障害、四肢切断および四肢欠損	衛藤 正雄
第 1 4 回	講義	まとめ	衛藤 正雄
第 1 5 回	講義	まとめ	衛藤 正雄

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験	1 0 0 %	レポート課題	0 %
------------	------	---------	--------	-----

<教科書および参考書>

教科書	高橋邦泰、他	整形外科学テキスト 改訂第 4 版	南江堂
参考資料			

授業科目	神経内科学 II					
担当者	佐藤 聡・富田 逸郎・瀬戸 牧子・ 佐藤 秀代	所 属	長崎北病院			
実務経験者の概要	実務経験(有)長崎北病院で神経内科医師として診療にあたっている。20年にわたり、当校で講義・指導にあたっている。					
学科名	理学療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	実地臨床で遭遇することが多い神経内科疾患について、疾患概念、病因、疫学、臨床所見、検査、治療を講義する。
到達目標	理学療法士、作業療法士として知っておくべき神経疾患の知識を習得する。
学生への要望	臨床・介入の場面で遭遇する神経疾患は多いが、ポイントは限られている。総論同様、授業でポイントをつかんで欲しい。また、ノート、メモをしっかりとって欲しい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	脳血管疾患、頭蓋内出血、くも膜下出血	佐藤 聡
第 2 回	講義	脳血栓、脳塞栓、一過性脳虚血発作	佐藤 聡
第 3 回	講義	分水界梗塞、特異な臨床像他、診断、治療	佐藤 聡
第 4 回	講義	脊髄性感覚障害、脊髄疾患	富田 逸郎
第 5 回	講義	脊髄性小脳変性症、MND、BSMA、MS、NMO、ADEM	富田 逸郎
第 6 回	講義	Parkinson 病、PSP、SND、SMA、Fahr 病	富田 逸郎
第 7 回	講義	ジストニー、瀬川病、Wilson、舞蹈病	富田 逸郎
第 8 回	講義	末梢神経障害	富田 逸郎
第 9 回	講義	ミオパチー (筋ジス)	佐藤 聡
第 10 回	講義	ミオパチー (Myotonia)、MELAS、筋無力症、筋炎	佐藤 聡
第 11 回	講義	神経感染症	佐藤 秀代
第 12 回	講義	てんかん、中毒、先天性代謝障害	佐藤 秀代
第 13 回	講義	糖尿病、肝不全、腎不全、排尿障害、リウマチ	瀬戸 牧子
第 14 回	講義	補講、総合講義	富田 逸郎
第 15 回	講義	まとめ	富田 逸郎

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100% レポート課題 0%
------------	---------------------

<教科書および参考書>

教科書	奈良 勲	神経内科学 第 4 版 (PT・OT 専門基礎分野)	医学書院
参考資料	田崎義昭	ベッドサイドの神経の診かた 神経病学	南山堂

授業科目	精神医学					
担当者	岩阪 真大	所 属	医療法人 昌生会 出口病院			
実務経験者の概要	実務経験(有) 作業療法士として精神科病院等に従事し、精神障害者のリハビリテーションに携わった。					
学科名	作業療法学科	学 年	2	総単位数	1 単位	
		開講時期	前期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	精神障害の診断、各精神疾患の特性や経過や予後についての理解を深める。また、関連する治療法やリハビリテーション、精神保健について学ぶ。
到達目標	各精神疾患についての特徴(特性)をさらに詳しく学ぶと共に、治療法やリハビリテーションについて理解を深め、臨床場面で適切な対応・行動がとれるようになることを目指す。
学生への要望	精神医学総論で学んだ精神症状の復習を行っておくこと。新たな疾患名が多数出てくるので、わからない用語などは、教科書や辞書で調べることを。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	精神障害にかかわる概念	岩阪 真大
第 2 回	講義	精神障害の診断と評価	岩阪 真大
第 3 回	講義	脳器質性精神障害（認知症） 1	岩阪 真大
第 4 回	講義	脳器質性精神障害（認知症） 2	岩阪 真大
第 5 回	講義	精神作用物質による精神障害の特徴と治療	岩阪 真大
第 6 回	講義	てんかんの特徴と治療	岩阪 真大
第 7 回	講義	統合失調症およびその関連障害 1	岩阪 真大
第 8 回	講義	統合失調症およびその関連障害 2	岩阪 真大
第 9 回	講義	気分（感情）障害	岩阪 真大
第 10 回	講義	神経症性障害の特徴と治療	岩阪 真大
第 11 回	講義	パーソナリティ障害の特徴と治療	岩阪 真大
第 12 回	講義	精神保健医療と福祉、治療とリハビリテーション	岩阪 真大
第 13 回	講義	治療とリハビリテーション①	岩阪 真大
第 14 回	講義	治療とリハビリテーション② メンタルヘルス	岩阪 真大
第 15 回	講義	まとめ	岩阪 真大

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100%
------------	-----------

<教科書および参考書>

教科書	上野武治；標準理学療法学・作業療法学 精神医学 第 4 版 増補版、医学書院
参考資料	野村総一郎・他；標準精神医学 第 7 版、医学書院 上島国利・他；精神医学テキスト[改訂第 4 版]、南江堂 落合慈之；精神神経疾患 ビジュアルブック、学研メディカル秀潤社

授業科目	臨床医学 I					
担当者	田崎 修・他	所 属	長崎大学病院 高度救命救急センター			
実務経験者の概要	実務経験(有) 各々の先生方は、医師として救命救急センターにて臨床を経験している。					
学科名	理学療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	15 時間	

<内 容>

授業の概要	医療従事者として、専門領域以外の臨床医学について幅広い知識と教養を身につけるために、必須専門基礎科目に含まれない他の臨床医学分野について学ぶ。
到達目標	学生諸君が、将来社会に出たとき、或いは明日、眼前で人が倒れたとき、救急処置が行えるよう、必要な知識を習得する。
学生への要望	

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	救急医学領域 1 (救急医療体制)	田崎 修
第 2 回	講義	救急医学領域 2 (心肺蘇生)	村橋 志門
第 3 回	講義	救急医学領域 3 (ショック)	高橋 健介
第 4 回	講義	救急医学領域 4 (外傷)	猪熊 孝実
第 5 回	講義	救急医学領域 5 (敗血症)	太田黒 崇伸
第 6 回	講義	老年期障害学 1	大曲 勝久
第 7 回	講義	老年期障害学 2	大曲 勝久
第 8 回		老年期障害学 3	大曲 勝久

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100%
------------	-----------

<教科書および参考書>

教科書	配布プリント
参考資料	

授業科目	基礎作業学Ⅱ					
担当者	牧山 美穂・他	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) リハビリテーション病院にて中枢疾患、変性疾患、認知症などに対する作業療法士としての臨床経験を持つ。訪問リハビリテーション、機能訓練事業等にも従事経験がある。					
学科名	作業療法学科	学 年	2 年	総単位数	2 単位	
		開講時期	前期	総時間数	60 時間	

<内 容>

授業の概要	各種の作業活動(Activity)を行い、作業分析および指導法について習得する。また各作業活動のもつ治療効果について学ぶ。
到達目標	包括的作業分析等を行い、それぞれの作業の特性を説明できる。 作業療法的視点でそれぞれの作業の治療的応用・知超効果を説明できる。
学生への要望	技法の習得に終始することなく、作業活動の意義についての理解を深め、活動の持つ魅力についても探求してほしい。また、治療的応用についても積極的に学んでほしい。 事前に各作業活動について予習を行い、活動に適した服装で参加すること。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1-2 回	講義	取り組む活動(全 6 種目)の概要の理解 演習に必要な道具等の準備・確認	牧山・福島・渡邊 鍵山・三岳・白石
第 3-6 回	演習	体験と理解①(園芸)	鍵山・白石
第 7-10 回	演習	体験と理解②(絵画)	渡邊
第 11-14 回	演習	体験と理解③(陶芸)	福島・三岳
第 15-16 回	演習	体験と理解④-1(まくらめ)	牧山
第 17 回	演習	作業分析と治療的応用について(レポートのフィードバック) 片付け	福島・渡邊・三岳 白石
第 18-19 回	演習	体験と理解④-2(まくらめ)	牧山
第 20-23 回	演習	体験と理解⑤(革細工)	三岳・白石
第 24-27 回	演習	体験と理解⑥(木工)	福島・鍵山
第 28-29 回		作業分析と治療的応用について(レポートのフィードバック) 糊葉掛け・片付け	牧山・福島・鍵山 三岳・白石
第 30 回		まとめ	牧山・福島・渡邊 鍵山・三岳・白石

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 90% レポート課題・作品課題 10%
------------	--------------------------

<教科書および参考書>

教科書	山根 寛 ひとと作業・作業活動 新版 三輪書店 日本作業療法士協会 作業—その治療的応用 改訂第 2 版 協同医書出版
参考資料	鷲田孝保; 作業療法学全書第 2 巻 基礎作業学、協同医書出版 岩瀬義昭; 基礎作業学実習ガイド、協同医書出版

授業科目	身体機能評価学Ⅲ					
担当者	福島浩満・他	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 急性期クリニックと回復期リハビリテーション病棟を持つ病院で作業療法士として勤務した経験を持つ。主に脳血管疾患と整形疾患患者への評価・治療の経験をもとに講義を実施する。					
学科名	作業療法学科	学 年	2	総単位数	1 単位	
		開講時期	前期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	身体障害領域の対象者理解に求められる評価について学ぶ。各検査の目的及び方法を臨床で実施し、迅速に行えるように体験する。
到達目標	履修した評価技法を学生同士で実施することができる。対象者に対して実施する場合のリスクを理解する。
学生への要望	評価学実習を行う前に、各検査は一人一人が被験者・検査者となり、協力して実施できるように学んでほしい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第1回	演習	評価復習【バイタル、形態測定、反射、感覚検査】	福島・鍵山
第2回	演習	評価復習【筋緊張、BRS、ROM】	福島・鍵山
第3回	講義	片麻痺機能検査（上田12段階グレード法）	福島
第4回	講義	脳神経検査	福島
第5回	講義	上肢機能検査	鍵山
第6回	講義	協調性の評価	鍵山
第7回	講義	MMT 総論、その他の筋力測定【握力計、ピンチ力計】	福島・鍵山
第8回	演習	MMT 上肢①	福島・鍵山
第9回	演習	MMT 上肢②	福島・鍵山
第10回	演習	MMT 下肢①	福島・鍵山
第11回	演習	MMT 下肢②	福島・鍵山
第12回	演習	MMT 頭部・頸部	福島・鍵山
第13回	演習	MMT 体幹	福島・鍵山
第14回	演習	評価検討（事例検討）	福島・鍵山
第15回		まとめ	福島・鍵山

<評価方法>

成績評価・方法・基準	筆記試験 100%
------------	-----------

<教科書および参考書>

教科書	矢谷令子	標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版	医学書院
	津山直一	新・徒手筋力検査法 病気がみえる〈Vol.7〉脳・神経	医書出版 医療情報科学研究所
参考資料	田崎義明	ベッドサイドの神経の診かた	南山堂
	岩崎テル子	標準作業療法学 作業療法評価学第2版	医学書院

授業科目	精神機能評価学Ⅲ					
担当者	渡邊正之・他	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 精神分野の病院にて作業療法を行い、主に統合失調症・うつ病・認知症・神経症性障害のリハビリテーションを担当していた。臨床での経験や実務内容疾患の特性などを講義で話していきたい。					
学科名	作業療法学科	学 年	2 学年	総単位数	1 単位	
		開講時期	前期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	評価技法は知識だけでは習得できない。面接や各評価を実施できる力を身につけるため、演習する機会を設ける。
到達目標	評価の演習を行いながら基本的な関わり方（自己紹介、挨拶）を身につける
学生への要望	精神医学及び精神機能評価学Ⅰ・Ⅱの復習をしておくこと。評価の意義を理解し、自分の言葉で説明できるよう、練習する事。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第1回	講義	基本的な面接の進め方①	渡邊・三岳
第2回	講義	基本的な面接の進め方②	渡邊・三岳
第3回	演習	興味・関心チェックリスト	渡邊・三岳
第4回	講義	カナダ作業遂行測定（COPM）①	渡邊・三岳
第5回	演習	カナダ作業遂行測定（COPM）②	渡邊・三岳
第6回	講義	精神障害者社会生活評価尺度①	渡邊・三岳
第7回	演習	精神障害者社会生活評価尺度②	渡邊・三岳
第8回	講義	日本 OT 協会版ケアアセスメント①	渡邊・三岳
第9回	演習	日本 OT 協会版ケアアセスメント②	渡邊・三岳
第10回	講義	自己効力感尺度（SECL）①	渡邊・三岳
第11回	演習	自己効力感尺度（SECL）②	渡邊・三岳
第12回	講義	気分と疲労のチェックリスト（SMSF）①	渡邊・三岳
第13回	演習	気分と疲労のチェックリスト（SMSF）②	渡邊・三岳
第14回	演習	うつ病自己評価尺度（SDS）	渡邊・三岳
第15回		まとめ	渡邊・三岳

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100%
------------	-----------

<教科書および参考書>

教科書			
参考資料	山根 寛	精神障害と作業療法 新版	三輪書店
	Mary Law	COPM～カナダ作業遂行測定～第4版	大学教育出版
	岩崎テル子	標準作業療法 専門分野 作業療法評価学第2版	医学書院

授業科目	作業療法評価学演習					
担当者	福島浩満・他	所属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 急性期クリニックと回復期リハビリテーション病棟を持つ病院で作業療法士として勤務した経験を持つ。主に脳血管疾患と整形疾患患者への評価・治療の経験をもとに講義を実施する。					
学科名	作業療法学科	学年	2学年	総単位数	1単位	
		開講時期	前期	総時間数	30時間	

<内 容>

授業の概要	身体障害領域、精神障害領域の対象者理解に求められる評価について学ぶ。各検査の目的及び方法を臨床で体験し、手順や結果の抽出、結果の解釈に対する考え方を学ぶ。
到達目標	評価内容の意味と目的を理解し、対象者に合った適切な評価を実施することができる。
学生への要望	各疾患についての復習をして臨んで欲しい。臨床現場での実習を行う前に、各検査を協力して被検者・検査者となり、実施できるように準備して欲しい。

<講義計画>

回数	授業形態	内 容	担 当
第1回	演習	臨床評価演習①	福島・渡邊・鍵山・三岳
第2回	演習	臨床評価演習②	福島・渡邊・鍵山・三岳
第3回	演習	臨床評価演習③	福島・渡邊・鍵山・三岳
第4回	演習	臨床評価演習④	福島・渡邊・鍵山・三岳
第5回	演習	臨床評価演習⑤	福島・渡邊・鍵山・三岳
第6回	演習	臨床評価演習⑥	福島・渡邊・鍵山・三岳
第7回	演習	臨床評価演習⑦	福島・渡邊・鍵山・三岳
第8回	演習	臨床評価演習⑧	福島・渡邊・鍵山・三岳
第9回	演習	臨床評価演習⑨	福島・渡邊・鍵山・三岳
第10回	演習	臨床評価演習⑩	福島・渡邊・鍵山・三岳
第11回	演習	臨床評価演習⑪	福島・渡邊・鍵山・三岳
第12回	演習	臨床評価演習⑫	福島・渡邊・鍵山・三岳
第13回	演習	臨床評価演習⑬	福島・渡邊・鍵山・三岳
第14回	演習	臨床評価演習⑭	福島・渡邊・鍵山・三岳
第15回		臨床評価演習⑮	福島・渡邊・鍵山・三岳

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験（実技試験）100%
------------	----------------

<教科書および参考書>

教科書	プリント配布
参考資料	

授業科目	身体障害治療学 I					
担当者	福島 浩満、他	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 急性期クリニックと回復期リハビリテーション病棟を持つ病院で作業療法士として勤務した経験を持つ。主に脳血管疾患と整形疾患患者への評価・治療の経験をもとに講義を実施する。					
学科名	作業療法学科	学 年	2 学年	総単位数	1 単位	
		開講時期	前期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	身体障害作業療法の理論的アプローチおよびその理論に基づく疾患別対処法を学習する。
到達目標	治療原理や疾患ごとの予後や生活障害の特性について説明・模擬実践できる。
学生への要望	臨床に直結する科目であるため、疾患の特性はもちろんリスク管理を含めた予習復習を怠らないようにしてほしい。受け身で学習するのではなく、常に疑問を持ち自発的に取り組んで欲しい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	身体障害作業療法の基礎①	福島 浩満
第 2 回	講義	身体障害作業療法の基礎②	福島 浩満
第 3 回	講義	治療原理①(関節可動域維持・拡大)	福島 浩満
第 4 回	演習	治療原理②(関節可動域維持・拡大)	福島 浩満
第 5 回	講義	治療原理③(筋力と筋持久力、筋緊張異常)	鍵山 嘉史
第 6 回	演習	治療原理④(筋力と筋持久力、筋緊張異常)	鍵山 嘉史
第 7 回	講義	治療原理⑤(不随運動、協調運動障害、感覚・知覚再教育)	鍵山 嘉史
第 8 回	演習	治療原理⑥(不随運動、協調運動障害、感覚・知覚再教育)	鍵山 嘉史
第 9 回	講義	脳血管疾患の作業療法①(CVA①)	鍵山 嘉史
第 10 回	演習	脳血管疾患の作業療法②(CVA②)	鍵山 嘉史
第 11 回	講義	脳血管疾患の作業療法③(頭部外傷)	鍵山 嘉史
第 12 回	講義	運動器疾患の作業療法①(上腕骨骨折)	福島 浩満
第 13 回	講義	運動器疾患の作業療法②(前腕・手の骨折)	福島 浩満
第 14 回	講義	運動器疾患の作業療法③(下肢骨骨折)	福島 浩満
第 15 回		まとめ	福島・鍵山

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100%
------------	-----------

<教科書および参考書>

教科書	山口 昇 編集 標準作業療法学 身体機能作業療法学 第 4 版 医療情報科学研究所 病気がみえる 〈vol.7〉 脳・神経 第 2 版 メディックメディア
参考資料	小林 隆司 身体障害作業療法学 1 骨関節・神経疾患編 羊土社 長崎重信 監修・編集 作業療法学 ゴールドマスターテキスト 身体障害作業療法学 第 2 版

授業科目	身体障害治療学Ⅱ					
担当者	白石 昌子	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 急性期、回復期、地域包括ケア、外来リハ、訪問リハ、通所介護、認知症疾患医療センター勤務を通して、医療～介護まで幅広く経験。とくに高齢者・認知症・地域リハに従事した経験が多い。					
学科名	作業療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	前期	総時間数	20 時間	

<内 容>

授業の概要	主病名や合併症も含め、内部疾患に対する作業療法の重要性は年々高くなってきている。特に高齢者は、複数疾患に罹患していることが多く、リスク管理においても理解・対応することは重要である。本講義では呼吸器疾患、循環器疾患、腎臓機能障害、がんを中心に病態や治療の基礎、リスク管理、作業療法評価や介入について知識の習得を目指す。厚労省からの通達により、理学療法士作業療法士に認められた吸引についても、演習を交えて学習する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・内部疾患に共通する評価やリスク管理の基礎的知識を習得する。 ・リハ中止基準や作業療法実施中に起こる可能性のある事故、リスク管理を理解する。 ・作業療法士が吸引をする意味を知り、アセスメント・リスク・手順を理解する。 ・各疾患特有の検査や分類を理解し、作業療法評価・介入について理解する。
学生への要望	内部疾患の理解やリスク管理はどの領域においても必要な知識です。 確認テストや提供資料を参考にしながら、実習に向け自分の力にしていってください。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第1回	講義	内部障害に対する作業療法の基礎①	白石 昌子
第2回	講義	内部障害に対する作業療法の基礎②	白石 昌子
第3回	講義	呼吸器疾患	白石 昌子
第4回	講義	心疾患	白石 昌子
第5回	講義	がん	白石 昌子
第6回	講義	サルコペニアとリハビリテーション栄養	白石 昌子
第7回	講義	糖尿病	白石 昌子
第8回	講義	下部尿路機能障害	白石 昌子
第9回	講義	事例検討（個人ワーク／グループワーク）	白石 昌子
第10回	講義	まとめ	白石 昌子

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 90% レポート課題 10%
------------	---------------------

<教科書および参考書>

教科書	小林隆司	身体障害 作業療法学2 内部疾患編	羊土社
参考資料	稲川利光	内部障害ビジュアルリハビリテーション	Gakken
	長崎重信	作業療法学ワールドマスターテキスト 身体障害作業療法学改定 第2版	メジカルビュー社
	辻 哲也	標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学別巻 がんのリハビリテーション	医学書院

授業科目	精神障害治療学 I					
担当者	渡邊正之	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 精神分野の病院にて作業療法を行い、主に統合失調症・うつ病・認知症・神経症性障害のリハビリテーションを担当していた。臨床での経験や実務内容疾患の特性などを講義で話していきたい。					
学科名	作業療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	前期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	精神障害に対する作業療法の目的、治療構造、理論・技法、制度とシステムについて学ぶ。 また、代表的な疾患について作業療法の実際について学ぶ。
到達目標	精神科領域における作業療法の治療目的・役割等について基本的知識を理解することで、各疾患に対する作業療法を考える基礎を身に付ける。
学生への要望	精神医学や臨床心理学、精神機能評価学等で学んだ面接の構造や精神障害に関する知識の復習を行い臨んでほしい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	人と作業活動、精神の病と障害	渡邊 正之
第 2 回	講義	精神科領域における作業療法の目的と役割	渡邊 正之
第 3 回	講義	精神科領域における治療構造①	渡邊 正之
第 4 回	講義	精神科領域における治療構造②	渡邊 正之
第 5 回	講義	精神科作業療法計画と記録	渡邊 正之
第 6 回	講義	精神科作業療法と関連のある理論と技法、システム①	渡邊 正之
第 7 回	講義	精神科作業療法と関連のある理論と技法、システム①	渡邊 正之
第 8 回	講義	回復状態に応じた作業療法	渡邊 正之
第 9 回	講義	認知症の作業療法①	渡邊 正之
第 10 回	講義	認知症の作業療法②	渡邊 正之
第 11 回	講義	統合失調症の作業療法①	渡邊 正之
第 12 回	講義	統合失調症の作業療法②	渡邊 正之
第 13 回	講義	統合失調症の作業療法③	渡邊 正之
第 14 回	演習	生活技能訓練 (SST)	渡邊 正之
第 15 回		まとめ	渡邊 正之

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100% レポート課題 0%
------------	---------------------

<教科書および参考書>

教科書	山根 寛 精神障害と作業療法 新版	三輪書店
	朝田 隆・他 精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版	中央法規出版.
参考資料	山根 寛 ひとと集団・場 第2版	三輪書店.
	鈴木 丈 SST と心理教育	中央法規.
	香山明美・他 生活を支援する精神障害作業療法 第2版	医歯薬出版.
	長崎重信 作業療法学ゴールドマスター・テキスト 精神障害作業療法学第3版	メジカルビュー.

授業科目	発達障害治療学 I					
担当者	梅村 亜衣	所 属	長崎大学 子どもの心の医療・教育センター			
実務経験者の概要	実務経験(有)					
学科名	作業療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	前期	総時間数	20 時間	

<内 容>

授業の概要	運動面、認知面、行動面などの発達上の障害を持つ子どもの特性と彼らに対して必要な支援についてテキスト、講義資料をもとに講義、グループワークを実施。講義する。 基本的には対面実施ですが、新型コロナウイルス感染状況によってはオンライン講義に変更があります。講義の進捗によって内容は変更することがあります。
到達目標	発達障害児に対する知識を習得し、作業療法についても説明できるようになる。
学生への要望	発達障害児に対する作業療法支援は非常にニーズが高く、今後更に重要になっていきます。発達障害の理解は、その他の障害の理解にもつながりますので、発達障害領域に進まない人も発達障害治療学を深く学んで欲しいと思います。主体的に参加し、疑問点などは講義内で解消できるように努めてください。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	障害のある子どもへの支援	梅村 亜衣
第 2 回	講義	発達障害領域における作業療法士の役割	梅村 亜衣
第 3 回	講義	筋ジストロフィー症に対する評価と支援	梅村 亜衣
第 4 回	講義	知的能力障害の特性、評価と支援	梅村 亜衣
第 5 回	講義	自閉スペクトラム症の特性、評価と支援	梅村 亜衣
第 6 回	講義	注意欠如・多動症の特性、評価と支援	梅村 亜衣
第 7 回	講義	限局性学習症の特性、評価と支援	梅村 亜衣
第 8 回	講義	発達性協調運動症の特性、評価と支援	梅村 亜衣
第 9 回	講義	その他の問題（場面緘黙、被虐待など）	梅村 亜衣
第 10 回	講義	発達障害領域の国家試験問題、まとめ	梅村 亜衣

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 50% グループワークでの発表と取り組み（活動点） 50%
------------	---------------------------------------

<教科書および参考書>

教科書	長崎 重信 ゴールドマスターテキスト 発達障害作業療法学第3版	メジカルビュー社
参考書	小西 紀一他 子どもの能力から考える発達障害領域の作業療法アプローチ 改訂第2版	メジカルビュー社
	加藤 寿宏他 エビデンスでひもとく発達障害作業療法—神経発達症の理解と支援—	

授業科目	高次脳機能障害治療学					
担当者	牧山 美穂	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) リハビリテーション病院にて中枢疾患、変性疾患、認知症などに対する作業療法士としての臨床経験を持つ。訪問リハビリテーション、機能訓練事業等にも従事経験がある。					
学科名	作業療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	前期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	高次脳機能障害の基礎知識を整理しつつ、その全容を把握する。また、障害別評価およびアプローチについて学び、社会生活までおよぶ高次脳機能障害の全体像を環境とともに理解する能力を養う。
到達目標	高次脳機能障害の障害像と作業療法アプローチの原則を理解できる。
学生への要望	高次脳機能障害を有する人々への支援を意識して、知識・技術を積極的に習得してほしい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	総論 高次脳機能障害、脳の機能の特徴	牧山 美穂
第 2 回	講義	総論 高次脳機能障害に対する評価と作業療法介入	牧山 美穂
第 3 回	講義	各論 意識・感情・知能の評価①	牧山 美穂
第 4 回	演習	各論 意識・感情・知能の評価②	牧山 美穂
第 5 回	講義	各論 注意・記憶障害の評価	牧山 美穂
第 6 回	演習	各論 注意・記憶障害への作業療法介入	牧山 美穂
第 7 回	講義	各論 言語機能の評価	牧山 美穂
第 8 回	講義	各論 失語への作業療法介入	牧山 美穂
第 9 回	講義	各論 失認の評価①	牧山 美穂
第 1 0 回	講義	各論 失認の評価②	牧山 美穂
第 1 1 回	演習	各論 失認への作業療法介入	牧山 美穂
第 1 2 回	講義	各論 失行の評価	牧山 美穂
第 1 3 回	講義	各論 前頭葉障害の評価	牧山 美穂
第 1 4 回	講義	各論 失行・前頭葉障害への作業療法介入	牧山 美穂
第 1 5 回	講義	まとめ	牧山 美穂

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100%
------------	-----------

<教科書および参考書>

教科書	石合純夫 高次脳機能障害第 3 版	医歯薬出版
参考資料	CR 別冊 高次脳機能障害のリハビリテーション	医歯薬出版

授業科目	日常生活活動Ⅲ					
担当者	鍵山嘉史	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験（有） 回復期リハビリテーション病棟を持つ病院で作業療法士として勤務した経験を持つ。また、介護支援専門員として居宅介護支援事業所での勤務経験を持つ。					
学科名	作業療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	前期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	疾患ごとに障害の特徴に合わせた ADL（評価や訓練、指導法）を演習を交えて学び、関連する国家試験問題にも触れる。
到達目標	疾患別の ADL の特徴を理解し、評価や訓練、指導法について学修する。
学生への要望	・ 事前に対象となる疾患の病態や特徴について確認しておいてもらいたい。 ・ 実習室での授業時はユニフォームを着用し、身なりを整えておくこと。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	中枢神経・神経筋疾患（片麻痺①）	鍵山 嘉史
第 2 回	講義	中枢神経・神経筋疾患（片麻痺②）	鍵山 嘉史
第 3 回	講義	中枢神経・神経筋疾患（脊髄損傷①）	鍵山 嘉史
第 4 回	講義	中枢神経・神経筋疾患（脊髄損傷②）	鍵山 嘉史
第 5 回	講義	骨・関節障害（関節リウマチ）	鍵山 嘉史
第 6 回	講義	骨・関節障害（骨・関節形態障害、慢性腰痛症）	鍵山 嘉史
第 7 回	講義	中枢神経・神経筋疾患（筋ジストロフィー）	鍵山 嘉史
第 8 回	講義	中枢神経・神経筋疾患（筋萎縮性側索硬化症）	鍵山 嘉史
第 9 回	講義	中枢神経・神経筋疾患（パーキンソン病）	鍵山 嘉史
第 1 0 回	講義	呼吸・循環障害（呼吸器障害）	鍵山 嘉史
第 1 1 回	講義	呼吸・循環障害（循環器障害）	鍵山 嘉史
第 1 2 回	講義	中枢神経・神経筋疾患（高次脳機能障害）	鍵山 嘉史
第 1 3 回	講義	事例検討①	鍵山 嘉史
第 1 4 回	講義	事例検討②	鍵山 嘉史
第 1 5 回	講義	まとめ	鍵山 嘉史

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 1 0 0 %
------------	--------------

<教科書および参考書>

教科書	伊藤利之 新版 日常生活活動（ADL）第 2 版	医歯薬出版
参考資料	長崎重信 OT 学ワールドマスターテキスト 日常生活活動（ADL）	ジカビユー社

授業科目	地域作業療法学					
担当者	牧山 美穂	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) リハビリテーション病院にて中枢疾患、変性疾患、認知症などに対する作業療法士としての臨床経験を持つ。訪問リハビリテーション、機能訓練事業等にも従事経験がある。					
学科名	作業療法学科	学 年	2 年	総単位数	2 単位	
		開講時期	前期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	地域リハビリテーションの捉え方や各種制度、具体的な実践方法について知識を深めていく。講義とグループワーク形式にて授業を進め、作業療法の地域での役割を考察する。
到達目標	地域で活用する各種の社会資源を理解し、マネジメントの方法を説明できる。
学生への要望	教科書を必ず読み、復習をすること。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	地域リハビリテーションの活動の歴史	牧山 美穂
第 2 回	講義	地域リハビリテーションの考え方と定義	牧山 美穂
第 3 回	講義	地域リハビリテーションに携わる職種や社会資源①	牧山 美穂
第 4 回	演習	地域リハビリテーションに携わる職種や社会資源②	牧山 美穂
第 5 回	講義	地域リハビリテーションの流れ・システム (医療、福祉、保健)	牧山 美穂
第 6 回	演習	地域リハビリテーションと介護保険①	牧山 美穂
第 7 回	講義	地域リハビリテーションと介護保険②	牧山 美穂
第 8 回	講義	地域リハビリテーションと障害者総合支援法	牧山 美穂
第 9 回	講義	生活障害の捉え方	牧山 美穂
第 1 0 回	講義	ケアマネジメント	牧山 美穂
第 1 1 回	演習	事例検討①	牧山 美穂
第 1 2 回	講義	事例検討②	牧山 美穂
第 1 3 回	講義	事例検討③	牧山 美穂
第 1 4 回	講義	終末期における地域リハビリテーション	牧山 美穂
第 1 5 回	講義	まとめ	牧山 美穂

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100%
------------	-----------

<教科書および参考書>

教科書	大田仁史	地域リハビリテーション論 ver8	三輪書店
参考資料			

作業療法学科 2年生 後期

授業科目	画像診断学					
担当者	筒井 伸・他	所 属	長崎大学病院			
実務経験者の概要	実務経験(有) 両者とも長崎大学病院などで放射線科医として、勤務している。臨床現場の経験をもとに画像診断や核医学などについて教育・指導を行っている。					
学科名	理学療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	後期	総時間数	1 5 時間	

<内 容>

授業の概要	放射線診断学を中心に放射線治療学、核医学を含めて放射線医学全般にわたって、わかりやすく説明します。
到達目標	放射線医学について幅広い知識を習得し、説明することができるようになる。
学生への要望	特になし

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	放射線医学とは	筒井 伸
第 2 回	講義	放射線の種類と性質	筒井 伸
第 3 回	講義	放射線の人体への影響	工藤 崇
第 4 回	講義	放射線診断	筒井 伸
第 5 回	講義	インターヴェンショナルラジオロジー	筒井 伸
第 6 回	講義	放射線治療	中村 太祐
第 7 回	講義	核医学診断	工藤 崇
第 8 回	講義	まとめ	筒井・工藤・中村

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100% レポート課題0%
------------	--------------------

<教科書および参考書>

教科書	尾尻 博也 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院
参考資料	

授業科目	臨床医学Ⅱ					
担当者	中畑 泰和・他	所属	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科			
実務経験者の概要	実務経験(有) 児玉は薬剤師として医療に従事している。荒木は医師として医療に従事している。					
学科名	理学療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	後期	総時間数	20 時間	

<内 容>

授業の概要	医療従事者として、専門領域以外の臨床医学について幅広い知識と教養を身につけるために、必須専門基礎科目に含まれない他の臨床医学分野について学ぶ。
到達目標	栄養学や薬理学、泌尿器領域の知識を習得して、ある程度説明できるようになる。
学生への要望	特になし

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	栄養学 1	中畑 泰和
第 2 回	講義	栄養学 2	中畑 泰和
第 3 回	講義	栄養学 3	中畑 泰和
第 4 回	講義	薬理学領域 1	児玉 幸修
第 5 回	講義	薬理学領域 2	児玉 幸修
第 6 回	講義	薬理学領域 3	児玉 幸修
第 7 回	講義	腎・泌尿器領域 1	荒木 杏平
第 8 回	講義	腎・泌尿器領域 2	荒木 杏平
第 9 回	講義	腎・泌尿器領域 3	荒木 杏平
第 10 回		まとめ	中畑・児玉・荒木

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100% レポート課題 0%
------------	---------------------

<教科書および参考書>

教科書	内山靖・藤井浩美・立石雅子 編 リハベーシック 生化学・栄養学	医歯薬出版
参考資料		

授業科目	作業療法管理学 I					
担当者	淡野 義長	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 各期にて臨床実践を経験。リハセンター、急性期、回復期、老健での勤務から脊損、RA、神経難病、外傷、神経疾患、小児麻痺、切断、脳卒中などへの対応経験を有する。通所、訪問の経験や OT 管理者経験もある。養成校での勤務経験もあるので、幅広い視野での講義を展開する。					
学科名	作業療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	後期	総時間数	1 5 時間	

<内 容>

授業の概要	作業療法の現場では、人材育成、医療安全管理、経営管理などの必要性が高まっている。組織や業務の管理運営に関して学ぶ科目である。
到達目標	組織の中の作業療法、医療における管理運営を説明できる。 作業療法の職域や職業倫理を理解し作業療法を取り巻く諸制度を知る。
学生への要望	教科書を必ず読み、復習をすること。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	作業療法とマネジメント	淡野 義長
第 2 回	講義	組織と作業療法	淡野 義長
第 3 回	講義	情報のマネジメント、医療サービスのマネジメント	淡野 義長
第 4 回	講義	医療安全のマネジメント	淡野 義長
第 5 回	講義	作業療法業務のマネジメント	淡野 義長
第 6 回	講義	作業療法の役割と職域、職業倫理	淡野 義長
第 7 回	講義	作業療法を取り巻く諸制度	淡野 義長
第 8 回	講義	まとめ	淡野 義長

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100%
------------	-----------

<教科書および参考書>

教科書	大庭潤平	作業療法管理学入門	医歯薬出版
参考資料			

授業科目	義肢装具学					
担当者	福島 浩満・他	所属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 急性期クリニックと回復期リハビリテーション病棟を持つ病院で作業療法士として勤務した経験を持つ。主に脳血管疾患と整形疾患患者への評価・治療の経験をもとに講義を実施する。					
学科名	作業療法学科	学年	2	総単位数	1 単位	
		開講時期	後期	総時間数	20 時間	

<内 容>

授業の概要	義手は切断における義手の名称及び適応・チェックアウトについて解説する。装具は末梢神経損傷・リウマチ等におけるスプリントの名称及び適応について学び、カックアップスプリントの作製を体験する。適宜国家試験問題を提示し、解説する。
到達目標	義手、およびスプリントの構成、使用方法、適応について理解する。
学生への要望	義肢装具の基礎知識をしっかり身につけ、的確な装具の選択と製作が可能になるように身に付けてほしい。また国家試験問題にも慣れ、必要な知識を吸収して欲しい。

<講義計画>

回数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	義肢装具学の概要	淡野 義長
第 2 回	講義	上腕義手と前腕義手 基本構造と適応	淡野 義長
第 3 回	講義	筋電義手の基本	淡野 義長
第 4 回	講義	義足の基本的構造と適応	淡野 義長
第 5 回	講義	上肢装具/スプリント 基本構造と適応①	福島 浩満
第 6 回	講義	上肢装具/スプリント 基本構造と適応②	福島 浩満
第 7 回	講義	スプリント製作①	福島 浩満
第 8 回	講義	スプリント製作②	福島 浩満
第 9 回	演習	スプリント製作③	福島 浩満
第 10 回	演習	スプリント製作④/まとめ	福島 浩満

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100%
------------	-----------

<教科書および参考書>

教科書	長崎重信 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 義肢装具学	メジカルビュー社
参考資料	古川 宏 作業療法学全書第 9 巻 義肢装具学	協同医書出版

授業科目	基礎作業学Ⅲ					
担当者	牧山 美穂	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) リハビリテーション病院にて中枢疾患、変性疾患、認知症などに対する作業療法士としての臨床経験を持つ。訪問リハビリテーション、機能訓練事業等にも従事経験がある。					
学科名	作業療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	後期	総時間数	1 5 時間	

<内 容>

授業の概要	集団活動を利用した作業療法の治療・援助の在り方を学ぶ。
到達目標	作業療法の場面に必要な集団活動について、企画力と運営力を身に付ける。
学生への要望	集団活動の実施とともに、集団への関わり方や観察力を養うように取り組むこと。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	集団活動の基礎知識、アダプテーションと段階付け、ガイダンス方法	牧山 美穂
第 2 回	講義	集団活動のプログラム立案、構成企画、管理の方法、評価の視点	牧山 美穂
第 3 回	講義	集団活動の企画と準備、デモンストレーション①	牧山 美穂
第 4 回	講義	集団活動の企画と準備、デモンストレーション②	牧山 美穂
第 5 回	演習	集団活動の運営演習①音楽	牧山 美穂
第 6 回	演習	集団活動の運営演習②創作活動・レクリエーション	牧山 美穂
第 7 回	演習	集団活動の運営演習③料理	牧山 美穂
第 8 回	講義	演習の振り返り (効果判定、評価、観察、段階付け)、まとめ	牧山 美穂

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 95% 活動点 5%
------------	--------------------

<教科書および参考書>

教科書	なし
参考資料	

授業科目	身体障害治療学Ⅲ					
担当者	鍵山 嘉史	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 回復期リハビリテーション病棟を持つ病院で作業療法士として勤務した経験を持つ。また、介護支援専門員として居宅介護支援事業所での勤務経験を持つ。					
学科名	作業療法学科	学 年	2 学年	総単位数	1 単位	
		開講時期	後期	総時間数	20 時間	

<内 容>

授業の概要	作業療法の対象となる身体障害の特徴を理解し、日常生活活動の低下などの生活障害に対し、障害特性に応じた実践的な知識、技術を学ぶ。
到達目標	各疾患の特性や予後、生活障害の特性について説明・模擬実践できる。
学生への要望	臨床に直結する科目であるため、疾患の知識はもちろんリスク管理を含めた予習復習を怠らないようにしてほしい。受け身で学習するのではなく、常に疑問を持ち自発的に取り組んで欲しい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	骨関節疾患の作業療法①(熱傷)	鍵山 嘉史
第 2 回	講義	骨関節疾患の作業療法②(リウマチ)	鍵山 嘉史
第 3 回	講義	脊髄損傷の作業療法①	淡野 義長
第 4 回	講義	脊髄損傷の作業療法②	淡野 義長
第 5 回	講義	神経変性疾患の作業療法①	鍵山 嘉史
第 6 回	講義	神経変性疾患の作業療法②	鍵山 嘉史
第 7 回	講義	神経筋疾患の作業療法	鍵山 嘉史
第 8 回	演習	事例検討①	鍵山 嘉史
第 9 回	演習	事例検討②	淡野 義長
第 10 回		まとめ	鍵山 嘉史

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100% レポート課題 0%
------------	---------------------

<教科書および参考書>

教科書	山口 昇 編集 標準作業療法学 身体機能作業療法学 第3版 医療情報科学研究所 病気がみえる 〈vol.11〉 運動器・整形外科 メディックメディア
参考資料	長崎重信 監修・編集 作業療法学 ゴールドマスターテキスト 身体障害作業療法学 第2版 医療情報科学研究所 病気がみえる 〈vol.7〉 脳・神経 メディックメディア

授業科目	精神障害治療学Ⅱ					
担当者	渡邊 正之	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 精神分野の病院にて作業療法を行い、主に統合失調症・うつ病・認知症・神経症性障害のリハビリテーションを担当していた。臨床での経験や実務内容疾患の特性などを講義で話していきたい。					
学科名	作業療法学科	学 年	2 学年	総単位数	1 単位	
		開講時期	後期	総時間数	20 時間	

<内 容>

授業の概要	精神障害の各疾患における作業療法の実際について学ぶ。また、疾患別に目的や種目選択など具体的に説明していきたい。
到達目標	疾患の全体像を把握し、疾患特性を理解し作業療法の目的を説明できる。
学生への要望	精神医学、臨床心理学など精神障害に関連する科目の復習をしておくこと。毎授業事に小テストを実施する予定です。しっかり復習しておくようにして下さい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	気分障害の作業療法①	渡邊 正之
第 2 回	講義	気分障害の作業療法②	渡邊 正之
第 3 回	講義	気分障害の作業療法③	渡邊 正之
第 4 回	講義	神経症の作業療法	渡邊 正之
第 5 回	講義	摂食障害の作業療法	渡邊 正之
第 6 回	講義	依存症候群の作業療法	渡邊 正之
第 7 回	講義	パーソナリティ障害の作業療法	渡邊 正之
第 8 回	講義	てんかんの作業療法	渡邊 正之
第 9 回	講義	児童の精神障害と作業療法	渡邊 正之
第 10 回	講義	振り返り・まとめ	渡邊 正之

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100% レポート課題 0%
------------	---------------------

<教科書および参考書>

教科書	朝田 隆・他	精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版	中央法規出版
	山根 寛	精神障害と作業療法 新版	三輪書店
参考資料	香山朋美	生活を支援する精神科作業療法	医歯薬出版
	早坂友成	精神科作業療法の理解と技術	
	長崎重信	作業療法学ゴールドマスターテキスト第3版 精神障害作業療法学	メジカルビュー

授業科目	発達障害治療学Ⅱ					
担当者	中島 雄介	所 属	医療法人戸嶋会チャイルドハート諫早アウル			
実務経験者の概要	実務経験(有) 小児リハビリテーション外来、児童発達支援事業所、放課後等デイサービスを経験している。これまでの臨床経験をふまえて、発達障害領域の作業療法について講義する。					
学科名	作業療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	後期	総時間数	2 0 時間	

<内 容>

授業の概要	運動面、認知面、行動面などの発達期に障害を持つ子どもと人たちの障害特性と必要な支援について講義、実技などをする。
到達目標	発達障害児に対する知識を習得し、作業療法についても説明できるようになる。
学生への要望	発達期に障害をもった子どもや人たちに対する作業療法支援は非常にニーズが高く、今後さらに重要になっていきます。この分野の障害特性の理解は、その他の障害の理解にもつながりますので、発達障害領域に進まない人も発達障害治療学を深く学んでほしいと思います。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	発達障害領域の作業療法とは	中島 雄介
第 2 回	講義	認知・思考機能の発達	中島 雄介
第 3 回	講義	遊びとセルフケアの発達	中島 雄介
第 4 回	講義	姿勢・運動発達のプロセス	中島 雄介
第 5 回	講義	脳性麻痺の姿勢と運動へのアプローチ	中島 雄介
第 6 回	講義	感覚統合と感覚調整障害に対する評価・アプローチ	中島 雄介
第 7 回	講義	感覚統合による行為機能に対するアプローチ	中島 雄介
第 8 回	講義	感覚統合と神経発達症に対する介入法	中島 雄介
第 9 回	講義	発達障害領域の作業療法評価	中島 雄介
第 1 0 回	講義	地域における作業療法のこれから	中島 雄介

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 70% 課題 30%
------------	-----------------

<教科書および参考書>

教科書	長崎重信 作業療法学ゴールドマスターテキスト 発達障害作業療法学第 3 版	メディカルビュー
参考資料	上杉雅之・他 イラストでわかる人間発達学	医歯薬出版株式会社
	福田恵美子 標準作業療法学 発達過程作業療法学第 2 版	医学書院

授業科目	高齢期治療学					
担当者	三岳 直也	所属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 精神・高齢期分野の病院にて作業療法士として従事しており、統合失調症・双極性障害・認知症等の作業療法を担当していた。臨床での経験を活かし、疾患の基本や関わり方等を講義で話していきたい。					
学科名	作業療法学科	学年	2年	総単位数	1単位	
		開講時期	後期	総時間数	20時間	

<内 容>

授業の概要	講義や演習を通して、高齢期の生活や特性を理解し、作業療法における評価やアプローチについて学習を進めていく。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の生活や特性を理解するとともに、社会的状況や施策を知る。 ・ 高齢者に対する作業療法を理解し、考えられる力を養う。 ・ 地域の高齢者との関りを通じて、集団活動の運営や支援を学ぶ。
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者を取り巻く施策や話題について、日頃から関心を持って情報収集に心がけてほしい。 ・ 演習やグループワークなど主体的に取り組んでほしい。

<講義計画>

回数	授業形態	内 容	担 当
第1回	講義	高齢期作業療法の枠組みと対象	三岳 直也
第2回	講義	高齢期における制度	三岳 直也
第3回	講義	高齢期における作業療法士の介入（施設）	三岳 直也
第4回	講義	高齢期における作業療法士の介入（地域）	三岳 直也
第5回	講義	身体・精神機能の加齢変化	三岳 直也
第6回	講義	高齢期における臨床現場で多い疾患	三岳 直也
第7回	演習	認知症に対する関わり	三岳 直也
第8回	演習	高齢期における評価項目	三岳 直也
第9回	演習	高齢期における近接療法	三岳 直也
第10回	講義	まとめ	三岳 直也

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100% レポート課題 0%
------------	---------------------

<教科書および参考書>

教科書	浅海奈津美 他 老年期の作業療法 改訂第3版	三輪書店
参考資料	守口恭子 高齢期における認知症のある人への作業療法	三輪書店

授業科目	総合学習 I					
担当者	三岳 直也・他	所 属	長崎医療技術専門学校専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 作業療法士として精神・高齢期分野の病院に従事していた。統合失調症・双極性障害・認知症などに対する作業療法士としての臨床経験を持つ。					
学科名	理学療法学科	学 年	2 学年	総単位数	1 単位	
		開講時期	後期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	文献抄読を通し、新しい知識に触れるとともに、1 学年で学習した研究方法をより理解することに繋げる。国家試験の問題の内容や範囲を理解する。
到達目標	文献抄読の流れを理解し他者に興味のある分野の説明ができる。国家試験の問題に触れ、現在の能力を把握し苦手な分野に気付くことができる。
学生への要望	自ら探求心を持って自発的に取り組んで欲しい。国家試験対策では多数の教科書から答えとなる解説を学んでほしい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	オリエンテーション、国家試験対策準備	三岳 直也
第 2 回	講義	実習報告会	牧山・福島・渡邊 三岳・鍵山・白石
第 3 回	講義	実習報告会、文献検索	牧山・福島・渡邊 三岳・鍵山・白石
第 4 回	講義	国家試験対策判別学習	三岳 直也
第 5 回	講義	文献検索	牧山・福島・渡邊 三岳・鍵山・白石
第 6 回	講義	国家試験対策判別学習	三岳 直也
第 7 回	講義	国家試験対策判別学習	三岳 直也
第 8 回	講義	抄録作成	牧山・福島・渡邊 三岳・鍵山・白石
第 9 回	講義	模擬テスト(共通 50 問)	三岳 直也
第 1 0 回	講義	抄録作成	牧山・福島・渡邊 三岳・鍵山・白石
第 1 1 回	講義	抄録作成	牧山・福島・渡邊 三岳・鍵山・白石
第 1 2 回	講義	国家試験対策判別学習	三岳 直也
第 1 3 回	演習	抄録作成	牧山・福島・渡邊 三岳・鍵山・白石
第 1 4 回	講義	国家試験対策判別学習	三岳 直也
第 1 5 回	講義	抄録作成	牧山・福島・渡邊 三岳・鍵山・白石

第16回	講義	国家試験対策判別学習	三岳 直也
第17回	講義	文献発表	牧山・福島・渡邊 三岳・鍵山・白石
第18回	講義	文献発表	牧山・福島・渡邊 三岳・鍵山・白石
第19回	講義	総合学習Ⅰ定期試験	三岳 直也
第20回	講義	抄録作成	牧山・福島・渡邊 三岳・鍵山・白石
第21回	講義	国家試験対策判別学習	三岳 直也
第22回	講義	国家試験対策判別学習	三岳 直也
第23回	講義	国家試験対策判別学習	三岳 直也
第24回	講義	国家試験対策判別学習	三岳 直也
第25回	講義	国家試験対策判別学習	三岳 直也
第26回	講義	国家試験対策判別学習	三岳 直也
第27回	講義	国家試験対策判別学習	三岳 直也
第28回	講義	国家試験対策判別学習	三岳 直也
第29回	講義	国家試験対策判別学習	三岳 直也
第30回	講義	国家試験対策判別学習	三岳 直也

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 40% レポート課題 60%
------------	---------------------

<教科書および参考書>

教科書	配布資料
参考資料	第56回～第60回 国家試験問題

授業科目	総合治療論 I					
担当者	三岳 直也・他	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 作業療法士として精神・高齢期分野の病院に従事していた。統合失調症・双極性障害・認知症などに対する作業療法士としての臨床経験を持つ。					
学科名	作業療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	後期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	評価から全体像の把握までの一連の過程を経験する評価実習に向け、「身体機能評価学」や「精神機能評価学」、「評価学演習」で学んだ知識・技術を基礎に、少人数のグループによる演習などでその内容を再学習する。
到達目標	
学生への要望	復習を必ずすること

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	チェックリストについて	OT 教員
第 2 回	講義	デイリーノートの書き方	牧山
第 3 回	講義	評価演習 面接	渡邊 正之
第 4 回	講義	脳血管障害の復習	福島 浩満
第 5 回	講義	評価演習 精神障害系	渡邊 正之
第 6 回	講義	評価演習 バイタル／脳神経	福島, 鍵山
第 7 回	講義	全体像の把握 ICF	OT 教員
第 8 回	講義	評価演習 MMT／ROM	福島, 鍵山
第 9 回	講義	評価演習 感覚／反射	福島, 鍵山
第 1 0 回	講義	整形疾患の復習	福島 浩満
第 1 1 回	講義	評価演習 高次脳機能の各種検査	牧山 美穂
第 1 2 回	講義	評価演習 ADL	OT 教員
第 1 3 回	講義	認知症について	三岳 直也
第 1 4 回	講義	評価演習 認知症	三岳 直也
第 1 5 回	講義	事例評価検討	福島, 鍵山

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 0% レポート課題 100%
------------	---------------------

<教科書および参考書>

教科書	
参考資料	

授業科目	職業関連活動					
担当者	牧山 美穂	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) リハビリテーション病院にて中枢疾患、変性疾患、認知症などに対する作業療法士としての臨床経験を持つ。訪問リハビリテーション、機能訓練事業等にも従事経験がある。					
学科名	作業療法学科	学 年	2 年	総単位数	2 単位	
		開講時期	後期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	人が職業に就くことを目的として行われるすべての職業関連活動を学ぶ。就労に必要な基礎的な能力を習得するための準備活動、就職のための活動、および就労生活を継続するために必要な活動を含む。
到達目標	職業リハビリテーションにおける作業療法の関わりを理解できる。
学生への要望	職業・就業に関する世の中の動き（ニュース）にも関心を持って授業に臨んでほしい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	職業関連活動とは	牧山 美穂
第 2 回	講義	障害者と職業①	牧山 美穂
第 3 回	講義	障害者と職業②	牧山 美穂
第 4 回	講義	職業リハビリテーション、援助過程で行われるサービス	牧山 美穂
第 5 回	講義	就労支援における作業療法士の役割①	牧山 美穂
第 6 回	講義	就労支援における作業療法士の役割②	牧山 美穂
第 7 回	講義	評価と指導の流れ①	牧山 美穂
第 8 回	講義	評価と指導の流れ②	牧山 美穂
第 9 回	講義	指導の実際	牧山 美穂
第 1 0 回	演習	障害者支援施設見学①	牧山 美穂
第 1 1 回	演習	障害者支援施設見学②	牧山 美穂
第 1 2 回	演習	障害者支援施設見学③	牧山 美穂
第 1 3 回	演習	事例検討①	牧山 美穂
第 1 4 回	講義	事例検討②	牧山 美穂
第 1 5 回	講義	まとめ	牧山 美穂

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 95% レポート課題 5%
------------	--------------------

<教科書および参考書>

教科書	平賀 昭信 作業療法全書 職業関連活動 協同医書出版
参考資料	

授業科目	臨床実習Ⅱ					
担当者		所 属				
実務経験者の概要	実務経験(有)					
学科名	作業療法学科	学 年	2 年	総単位数	7 単位	
		開講時期	後期	総時間数	3 1 5 時間	

<内 容>

授業の概要	作業療法学科 2 年生は、前期までに作業療法評価学に関する関連科目を終え、後期までには作業療法治療学に関する科目を履修し、学内での基本的な知識・技術を概ね修得する。後期の前後に分けて実施される本臨床実習「臨床実習Ⅱ」は評価実習としての位置づけで行われ、臨床実習指導者のもと、見学・模倣・実践体験を通して、作業療法を行う上で必要な評価・治療プログラムの立案および医療人として求められる態度や責任感を持って行動すること。
到達目標	第 1 期の時は、学内にて作業療法の評価方法に関する基本的な知識および技術を学んでおり、第 2 期の時は、作業療法治療学の知識および技術を学んでいる。学生個々の経験値や到達度に応じて、段階的な行動目標を設定することが望まれる。基本的な技術や認知スキルの経験値をできるだけ高め、助言や指導の下に、自力で「実施」できることを増やしていくこと。
学生への要望	臨床での教育は、理学療法士という専門職を目指す学生にとって貴重な経験だが、その場は対象者の方々の協力と先輩である専門職の方々の好意によって提供されていることを認識しておくこと。

<講義計画>

臨床実習オリエンテーション (実習) 1 期：3 週間、2 期：4 週間 行動目標： ①職業人としての習慣・態度・業務理解を深める。 ②処方や指示内容から情報を読み取る経験をする。 ③対象者に即した情報収集を経験する。 ④対象者に即した検査・測定の過程を体験する。 ⑤対象者に即したリスク管理を考慮し、検査・測定を体験する。 ⑥収集した情報を分析ができ、対象者の全体像を把握するための心理的過程を経験する。 ⑦可能であれば、対象者に即した目標設定と理学療法プログラムを体験する。 (演習) 課題提出と実習報告会

<評価方法>

成績評価・方法・基準	臨床実習指導者の評価 60% 実習後評価 40%
------------	--------------------------

<教科書および参考書>

教科書	
参考資料	

作業療法学科 3年生

授業科目	作業療法管理学Ⅱ					
担当者	淡野 義長・他	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 各期にて臨床実践を経験。リハセンター、急性期、回復期、老健での勤務から脊損、RA、神経難病、外傷、神経疾患、小児麻痺、切断、脳卒中などへの対応経験を有する。通所、訪問の経験やOT管理者経験もある。養成校での勤務経験もあるので、幅広い視野での講義を展開する。					
学科名	作業療法学科	学 年	3 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	前期	総時間数	1 5 時間	

<内 容>

授業の概要	医療安全、医療サービス、職業倫理など作業療法の管理運営に関して、臨床場面に求められる事項を学ぶ。
到達目標	職業倫理、医療安全の知識を身につける。
学生への要望	まもなく臨床にて活躍するものとして意識を高く持って臨んでほしい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第1回	講義	診療記録の書き方、大切さ	中島 龍星
第2回	講義	災害リハビリテーション	淡野 義長
第3回	講義	作業療法マネジメントと職業倫理	沖 英一
第4回	講義	車椅子の選択とシーティング	淡野 義長
第5回	講義	精神障害領域におけるリスクマネジメント	渡邊 正之
第6回	講義	身体障害領域におけるリスクマネジメント	鍵山・三岳
第7回	講義	施設基準と診療報酬	三岳 直也
第8回	講義	作業療法マネジメントと職業倫理	沖 英一

<評価方法>

成績評価・方法・基準	レポート課題 100%
------------	-------------

<教科書および参考書>

教科書	なし
参考資料	なし

授業科目	総合治療論Ⅱ					
担当者	鍵山嘉史・他	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験（有） 回復期リハビリテーション病棟を持つ病院で作業療法士として勤務した経験を持つ。また、介護支援専門員として居宅介護支援事業所での勤務経験を持つ。					
学科名	作業療法学科	学 年		総単位数	2 単位	
		開講時期		総時間数	50 時間	

<内 容>

授業の概要	評価から治療までの一連の過程を経験する総合臨床実習に向け、各疾患における評価・治療について学び、その内容をデイリーノートにまとめていく。
到達目標	作業療法における各段階での臨床思考，技術を学ぶ 各疾患における評価方法や治療方法を学ぶ
学生への要望	復習を必ずすること

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1-2 回	講義	身体障害急性期の OT の実際	光永 済
第 3 回	講義	身体障害回復期の OT の実際①	道下 貴志
第 4 回	講義	身体障害回復期の OT の実際②	本田 秀明
第 5-6 回	講義	精神科作業療法の現状/依存症への関わり	前田 大輝
第 7-8 回	講義	高次脳機能障害における OT の実際	山田 麻和
第 9-10 回	講義	生活行為向上マネジメント(MTDLP)概論	内野 保則
第 11-12 回	講義	脊髄損傷のリハビリテーション	塚本 倫央
第 13-14 回	講義	認知症患者への評価と関わり方	松尾 優花
第 15-16 回	講義	生活行為向上マネジメント演習	牧山 美穂
第 17-18 回	講義	検査画像のみかた	福島・鍵山
第 19-20 回	講義	OT に必要な動作分析	福島 浩満
第 21-22 回	講義	精神障害領域における評価の視点と解釈	渡邊・三岳
第 23-24 回	講義	物理療法の基礎	森 健次郎
第 25-26 回	講義	失語症・運動障害性構音障害（摂食嚥下含む）	竹中 千尋
第 27-28 回	講義	PT・OT のための気道吸引	白石 昌子

<評価方法>

成績評価・方法・基準	レポート課題 100%
------------	-------------

<教科書および参考書>

教科書	
参考資料	

授業科目	総合学習Ⅱ					
担当者	鍵山嘉史・他	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験（有） 回復期リハビリテーション病棟を持つ病院で作業療法士として勤務した経験を持つ。また、介護支援専門員として居宅介護支援事業所での勤務経験を持つ。					
学科名	作業療法学科	学 年	3 年	総単位数	2 単位	
		開講時期	後期	総時間数	8 0 時間	

<内 容>

授業の概要	国家試験で必要とされる知識について、繰り返し学習する機会を設け、知識の整理と理解を促す。また、模擬試験棟を活用し、より実践的な環境の下で時間配分や集中力の持続など国家試験に向けた準備を構築していく。
到達目標	国家試験合格レベル
学生への要望	国家試験に直結する知識であり、積極的に不足している知識の獲得に努めること。

<講義計画>

病理学	身体障害(発達関連)
生理学	身体障害(高次脳)
脊髄損傷	高齢者の OT
発達障害	身体障害(内部障害)
臨床医学 (内科,外科)"	ADL 義肢装具学
運動学	身体障害(骨関節障害)
解剖学	身体障害(脳画像、CVA、脳腫瘍)
心電図の診かた	OT 評価
整形外科	身体障害 (変性疾患)
臨床心理学	精神障害 OT
介護保険・法律関係①	精神障害 OT
介護保険・法律関係②	精神医学

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100%
------------	-----------

<教科書および参考書>

教科書	PTOT 国家試験必修ポイント 2027 臨床医学	医歯薬出版
	PTOT 国家試験必修ポイント 2027 臨床医学	医歯薬出版
	PTOT 国家試験必修ポイント 2027 基礎 OT	医歯薬出版
	PTOT 国家試験必修ポイント 2027 OT 治療学	医歯薬出版
参考資料		

授業科目	総合学習Ⅲ					
担当者	鍵山嘉史・他	所属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験（有） 回復期リハビリテーション病棟を持つ病院で作業療法士として勤務した経験を持つ。また、介護支援専門員として居宅介護支援事業所での勤務経験を持つ。					
学科名	作業療法学科	学年	3年	総単位数	2単位	
		開講時期	後期	総時間数	80時間	

<内 容>

授業の概要	国家試験で必要とされる知識について、繰り返し学習する機会を設け、知識の整理と理解を促す。また、模擬試験棟を活用し、より実践的な環境の下で時間配分や集中力の持続など国家試験に向けた準備を構築していく。
到達目標	国家試験合格レベル
学生への要望	国家試験に直結する知識であり、積極的に不足している知識の獲得に努めること。

<講義計画>

<p>国家試験出題範囲について、小グループでの学習やペア学習をしながら学んでいく。</p> <p>模擬試験やクラス模試を通して、学習の到達状況を把握して、弱点を克服できるように進めていく。</p> <p>わからないキーワードを抽出して、テキスト等を使用して、ポスター作成をする。</p> <p>そのポスターを用いながら、グループ内で説明して知識をアウトプットする。</p> <p>出来るだけ、声に出して説明して、説明を受ける側も必ず復唱するように声を出すように意識する。</p>

<評価方法>

成績評価・方法・基準	試験 40%	レポート課題・活動点 60%
------------	--------	----------------

<教科書および参考書>

教科書	PTOT 国家試験必修ポイント 2027 臨床医学	医歯薬出版
	PTOT 国家試験必修ポイント 2027 臨床医学	医歯薬出版
	PTOT 国家試験必修ポイント 2027 基礎 OT	医歯薬出版
	PTOT 国家試験必修ポイント 2027 OT 治療学	医歯薬出版
参考資料		

授業科目	地域リハビリテーション論					
担当者	小中原 隆史	所 属	道ノ尾病院			
実務経験者の概要	実務経験(有) 作業療法士として、精神科領域のリハビリテーションに従事しており、訪問リハビリテーションの経験もある。					
学科名	作業療法学科	学 年	3 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	後期	総時間数	1 5 時間	

<内 容>

授業の概要	地域リハビリテーションの実際の展開と理学療法士や作業療法士の活躍を学び理解する。
到達目標	理学療法士や作業療法士の地域リハビリテーションにおける役割を説明できること
学生への要望	講義で学んだことを整理して記録すること

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	介護老人保健施設でのセラピストの役割①	飯野朋彦
第 2 回	講義	介護老人保健施設でのセラピストの役割②	飯野朋彦
第 3 回	講義	訪問リハビリテーションの現状①	
第 4 回	講義	訪問リハビリテーションの現状②	
第 5 回	講義	訪問リハビリテーションの現状-精神科- ①	小中原 隆史
第 6 回	講義	訪問リハビリテーションの現状-精神科- ②	小中原 隆史
第 7 回	講義	児童発達支援事業の現状①	兼元 博康
第 8 回	講義	児童発達支援事業の現状②	兼元 博康
第 9 回	講義	県職作業療法士の関わり①	原田 洋平
第 10 回	講義	県職作業療法士の関わり②	原田 洋平

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 0% レポート課題 100%
------------	---------------------

<教科書および参考書>

教科書	なし
参考資料	なし

授業科目	臨床実習Ⅲ					
担当者		所属				
実務経験者の概要	実務経験(有・無)					
学科名	作業療法学科	学 年	3 年	総単位数	1 6 単位	
		開講時期	前期	総時間数	7 2 0 時間	

<内 容>

授業の概要	<p>臨床実習の意義は、作業療法養成施設で学習した知識と技術・技能および態度を、臨床実習施設での作業療法体験を通して統合することである。</p> <p>総合実習としての本臨床実習は、作業療法対象者の障害像の把握、治療目的及び治療計画の立案、治療実施並びに治療効果判定について、臨床実習指導者からの助言、指導を受けながら理解を深めるとともに、その体験を通して作業療法業務を理解し、専門職としての適切な態度を養うことを目的とする。臨床実習前後での評価による事前準備や臨床実習による成長度合いを確認する。</p>
到達目標	<p>本臨床実習では「見学」や「模倣」に留まらず、対象者の安全に十分に配慮し、可能な範囲で、臨床実習指導者の監督の下「実施」できることを最も上位の到達レベルとする。また、1期・2期を通して作業療法に求められる知識や技術を幅広く学ぶ機会にする。</p>
学生への要望	<p>臨床での教育は、作業療法士という専門職を目指す学生にとって貴重な経験だが、その場は対象者の方々の協力と先輩である専門職の方々の好意によって提供されていることを認識しておくこと。</p>

<講義計画>

<p>連勝実習オリエンテーション</p> <p>(実習) 1期：8週間、2期：8週間</p> <p>目標：</p> <p>①対象者に対する全般的な安全への配慮を学ぶ。</p> <p>②作業療法実施上の倫理的・法的責任への理解を深める。</p> <p>③適切な作業療法評価を通して対象者の全体像を把握する。</p> <p>④問題・課題に対する治療計画を理解する。</p> <p>⑤治療目標及び治療計画に基づいた、基本的な作業療法技術を学ぶ。</p> <p>⑥治療効果判定や治療計画の修正、フォローアップについて学ぶ。</p> <p>⑦その他(施設および作業療法部門の組織・機構・管理・運営の理解、チームワークの重要性の理解など)</p> <p>(演習) 課題提出と実習報告会</p>
--

<評価方法>

成績評価・方法・基準	臨床実習指導者の評価 50% レポート課題 50%
------------	---------------------------

<教科書および参考書>

教科書	
参考資料	

授業科目	臨床実習Ⅳ					
担当者		所 属				
実務経験者の概要	実務経験(有・無)					
学科名	理学療法学科	学 年	3 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	後期	総時間数	4 5 時間	

<内 容>

授業の概要	地域に在住し生活をしている障害者、高齢者に対して理学療法・作業療法の知識・技術がどのように活用できるかを、保健医療福祉における実施機関・施設(市町村保健センター、訪問看護ステーション、介護老人保健施設、医療機関の在宅訪問指導、障害者施設等)での見学実習を通して学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各事業所の地域活動に参加できる。 2. 職員、対象者に対して適切なコミュニケーションがとれ、訪問に必要な態度を形成する。 3. 各事業所で提供しているサービス内容を把握できる。 4. 各事業所での理学療法士・作業療法士の業務内容と役割を理解できる。 5. 理学療法・作業療法の実施を補助できる。
学生への要望	臨床での教育は、理学療法士・作業療法士という専門職を目指す学生にとって貴重な経験だが、その場は対象者の方々の協力と先輩である専門職の方々の好意によって提供されていることを認識しておくこと。

<講義計画>

<p>実習オリエンテーション</p> <p>(実習) 5日間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数グループに分かれて、1事業所を体験する。 ・各事業所における地域活動に参加する。 ・訪問リハビリテーションや通所リハビリテーションを経験する。 ・介護保険サービスにおける目標設定やプログラム立案などを経験する。 ・理学療法士や作業療法士の業務を経験する。 <p>(演習) 課題提出と実習報告会</p>

<評価方法>

成績評価・方法・基準	臨床実習指導者の評価 30%	レポート課題 70%
------------	----------------	------------

<教科書および参考書>

教科書	
参考資料	